

UCC グループ サステナビリティレポート

Sustainability Report 2025



Our Purpose

私たちの存在意義

より良い世界のために、コーヒーの力を解き放つ。



Every coffee, every moment

Message from CEO CEO メッセージ

UCCグループは、1933年の創業以来、「いつでも、どこでも、一人でも多くの人においしいコーヒーを楽しんでいただきたい」という創業精神を受け継ぎ、コーヒーの価値探求・価値創造に取り組んできました。生産国での栽培から、農事支援、原料調達、研究開発、焙煎加工、販売、品質保証、文化、教育に至るまで、おいしいコーヒーを楽しんでいただくためのあらゆることを自社で手掛けています。

将来、コーヒーが今のように飲めなくなるかもしれない、そのようなことがよく聞かれます。私たちの命とも言うべきコーヒーを持続可能にするため、またコーヒーの力で持続可能な地球社会に貢献するため、グループとしてできることに全力で取り組まなければなりません。

私たちは2022年4月制定のサステナビリティビジョン「コーヒーの力で、世界にポジティブな変化を」のもと、2025年竣工した水素焙煎機でのコーヒー豆焙煎に代表される気候変動に向けた活動や、農林水産省および国際農業開発基金(IFAD)と連携したタンザニアでの生産者支援によるネイチャーポジティブ施策など、自然を豊かにする手助けとなる活動を行っています。また、サステナブル

なコーヒー調達を進めることで、ステークホルダーの人権などに配慮した調達活動を進め、人々を豊かにする手助けとなる活動も行っています。そして、サステナビリティに関わる現場主導の取り組みが多く生まれており、今後さらに増やしていきたいと考えています。

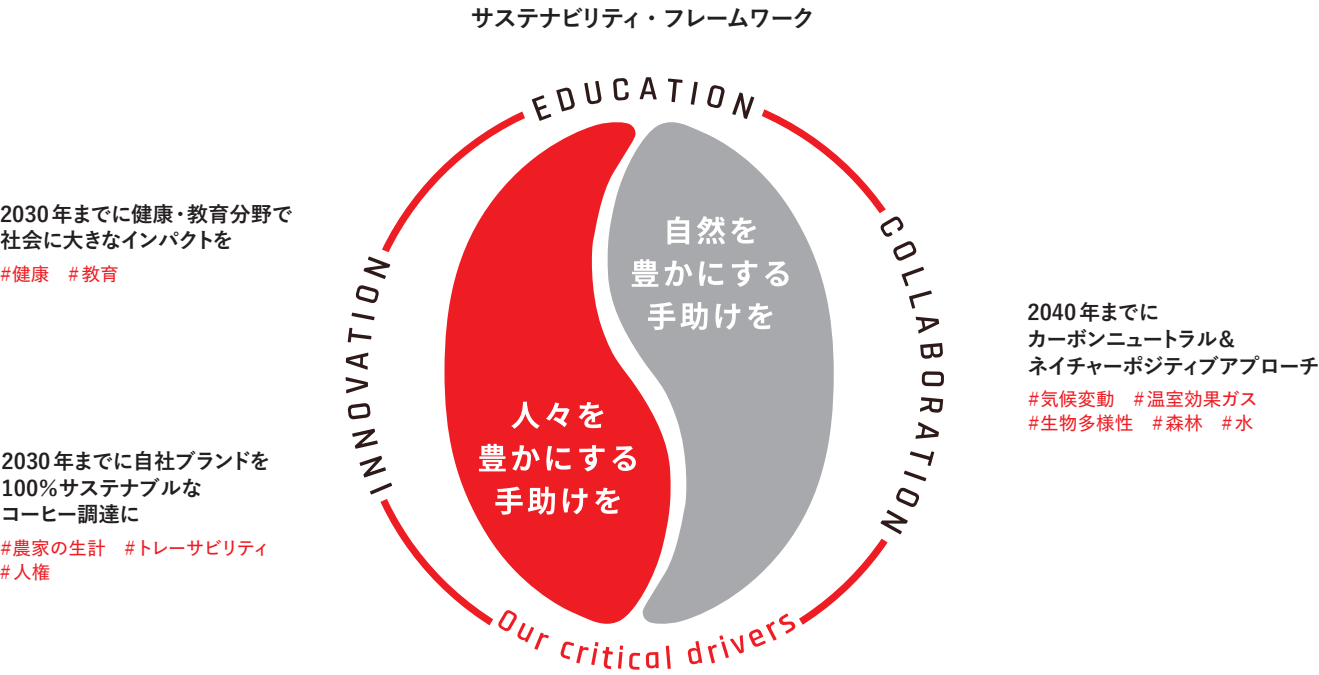
サステナビリティビジョンの実現には、特にステークホルダーの皆さまとの協働・共創が最重要ポイントとなるのは間違いありません。本サステナリティレポートはステークホルダーの皆さまとの対話をより活発にすることを目的に制作しており、本レポートを通じて皆さまと同じ方向を向いて取り組みを一緒に、共に価値を創造することで、世界にポジティブな変化を起こしていきたい、そのように私たちは考えています。「より良い世界のために、コーヒーの力を解き放つ。」これからも、UCCグループは、より良い世界のために、コーヒーを通じた価値創造に挑戦し続けます。

グループ CEO 上島 豪太

Sustainability Vision

サステナビリティビジョン

コーヒーの力で、世界にポジティブな変化を



Contents 目次

01	私たちの存在意義／CEOメッセージ
02	サステナビリティビジョン／目次
03	存在意義(パーパス)に基づくサステナビリティ戦略とバリューの実践
05	存在意義(パーパス)の本質
07	存在意義(パーパス)に基づくバリューの実践
07	2025年4月、世界で初めて水素焙煎コーヒーの量産を開始～富士工場稼働～
10	「Toyota Woven City」にInventorとして参画、未来型カフェでコーヒーの潜在価値を実証
11	国際農業開発基金と連携したタンザニア支援プロジェクト
13	サステナビリティマネジメント
15	環境 持続可能な地球を目指すために／気候変動対策／サーキュラーエコノミーへの貢献
19	環境 ネイチャーポジティブアプローチ
21	社会 産地支援とコーヒーコミュニティのより良い暮らしのために
25	社会 ステークホルダーの皆さまとUCCグループ一人ひとりのウェルビーイング
31	ガバナンス UCCグループの透明性向上とリスクマネジメント
33	パフォーマンスデータ

Editorial policy 編集方針

本レポートでは、UCCグループのサステナビリティに関する考え方やグローバル目標、それらを実現・達成するための取り組みと成果を報告しています。ステークホルダーの皆さまのUCCグループへのご理解を深めていただく一助となれば幸いです。

発行	2025年9月
対象期間	2024年1月1日～12月31日
対象範囲	UCCジャパン UCC上島珈琲 UCCコーヒープロフェッショナル ユーシーシーフードサービスシステムズ ラッキーコーヒーマシン UCC EUROPE UCC ASIA PACIFIC PTE. UCC COFFEE AUSTRALIA ほか

Group data グループデータ

グループ会社数	83社(2024年12月末)
グループ従業員数	5,683名(2024年12月末)

存在意義(パーパス)に基づく サステナビリティ戦略とバリューの実践

サステナビリティビジョン実現に向けた道のり

2021

- 1月から新たな経営方針検討をスタート
- 3月からサステナビリティ目標および戦略を検討するグローバルプロジェクトをスタート
- 10月、新たな経営方針として「私たちの存在意義(パーパス)」
「私たちの価値観(バリュー)」を制定 □ P.05-

- 2021年、社内外のステークホルダーへのインタビュー、外部トレンドおよびリスク分析など、多くのインプットを得る
- その過程で挙げられたマテリアリティ(重要課題)について全執行役員参加のワークショップなどを通じて議論を深め、「マテリアリティ・マトリックス」を作成
- 同マトリックスを基に、UCCグループの指針を定めるため、経営陣でさらなる議論を重ね、「サステナビリティビジョン」と「サステナビリティ・フレームワーク」を完成



UCCグループのパーパスをイメージした動画を制作しました。こちらをあわせてご覧ください。



2022

- 4月、「UCCサステナビリティ指針」を制定

2024

- 地球社会への貢献 × ネイチャーポジティブ
- 国際農業開発基金と連携した
タンザニア支援プロジェクト
□ P.11-

2030

- 協働と共創 × サステナブル調達
- 2030年までに自社ブランドを
100% サステナブルな
コーヒー調達に
□ P.21

2040

- 地球社会への貢献 × カーボンニュートラル
- 2040年までに
カーボンニュートラルの実現

2025

- コーヒーの価値探求
- 「Toyota Woven City」に
Inventorとして参画、
未来型カフェで
コーヒーの潜在価値を実証
□ P.10

2025

- 挑戦と前進 × カーボンニュートラル
- 2025年4月、世界で初めて
水素焙煎コーヒーの量産を開始
～富士工場稼働～
□ P.07-

- 地球社会への貢献 × サステナビリティ教育
- 2030年までにサステナビリティ教育
受講者数30万人を目指す
□ P.27

- コーヒーの価値探求 × 健康
- 2030年までに「コーヒー×健康」分野で
年間3億杯、売上150億円を通じて、
世界中の人々の健康に貢献する
□ P.29

20XX

2050

2045

問い直した存在意義

従来UCCグループには、「UCCグループ理念」「UCCグループ五訓」そして「基本戦略」という経営方針があり、同方針を基にした経営を実践し、従業員への理解浸透を図っていました。そんな中、パーパス制定から遡ること約1年半前の2020年前半に、非常に大きな出来事が起こりました。新型コロナウイルスによるパンデミックです。当社事業もコロナ禍で壊滅的なダメージを受けました。2021年以降の中期経営計画や予算を検討する矢先のことで、我々はどう行動すべきか——まさに暗中模索の状況にありました。このときの上島CEOの発言をよく覚えています。

「環境が非常に大きく変化しており、このままではグローバルで生き残っていけない。『脱皮』しないといけない」

当時経営企画を担当していた私は、「脱皮とは何か」を日々考え、環境変化に耐えうる戦略や組織について、経営陣で本当にたくさんのディスカッションをしました。パーパスや時代の流れ、みたいなものが先行したのではなく、危機に直面し、いかに生き残っていくかを議論する中で多くのステークホルダーに共感していただけたUCCグループの存在意義を明確にすること、それに基づいた経営を実践することが必要という結論に至ったのです。

パーパスは我々の拠り所、志であり、北極星です。それをいかに分かりやすく言語化するか、議論は混迷を極めました。言葉の専門家のサポートも受けましたが、基本的には自分たちで決めるべきと考え、検討を重ねました。海外拠点の経営陣にも入ってもらい、ディスカッションを進めましたが、特に欧州メンバーのパーパス意識が高く、本社である日本サイドが出した案に対し、「多くの人に共感されない」「強さが無い」といったダメ出しが続きました。ついに欧州チームからも案を出してもらうことになり、結果、実は

パーパスは欧州案がほぼそのままのベースになっています。

バリューにもこだわりました。UCCグループ五訓を非常に大事にしていたので、そのエッセンスを残し、ステークホルダーに理解いただける言葉で、また、グループとして当たり前になりすぎて明文化されていなかった、例えば「コーヒーの価値探求」という使命もしっかりと明文化しました。

約半年、中長期戦略の議論も加えると約1年の議論を経て、生み出されたのがUCCグループのパーパス「より良い世界のために、コーヒーの力を解き放つ。」と5つのバリュー「コーヒーの価値探求」「地球社会への貢献」「挑戦と前進」「協働と共創」「倫理観と責任」です。UCCグループのコーヒー事業のグローバル展開と未来、そして持続可能性を伝えられる素晴らしい言葉だと自信を持って言えるものができました。

全員で進む持続可能な道へ——全員で進むために

当然ながら、パーパスとバリューを実践するには、行動に移すことが最重要です。UCCグループ全体としてその意義を共有し、事業活動の中に組み込んでいく必要があります。2021年10月の公表以降、グローバル全体に浸透する取り組みやステークホルダーへの伝達など、活発に活動を展開しています。

また、コーヒーという商材を突き詰めて考えると、バリューの一つ「地球社会への貢献」はビジネスの基盤を維持する上で非常に重要であり、サステナビリティに直結するものです。このような視点から「地球社会への貢献」に資する活動を事業活動全体に組み込むべく、マテリアリティ評価を実施し、その内容を基に、サステナビリティビジョンとサステナビリティ・フレームワークを作成しました。UCCグループは、パーパスとバリュー、そしてサステナビリティビジョンとフレームワークのもと、一丸となって持続可能なコーヒー事業創造の道へ邁進していきます。

サステナビリティ経営 推進本部長に聞く、 パーパスの制定と実践

UCCジャパン株式会社 執行役員
サステナビリティ経営推進本部長
里見 陵

各エリアの バリュー体现 事例



#コーヒーの価値探求 #協働と共創

台湾の5つの大学とのパートナーシップにより、コーヒー教育の向上と将来の業界リーダーの育成を目的に「UCCチャンピオンバリスタプログラム」を開講しています。このプログラムでは、コーヒーに関する基礎知識、実践的な抽出技術を学ぶ講義やワークショップ、トレーニングなどを実施します。

トレーニングに必要なコーヒー豆はUCCが協賛しています。この取り組みにより、台湾の意欲的なバリスタの育成を支援するとともに台湾市場におけるUCCのブランド力と人材獲得力を強化しています。

In Australia



#協働と共創

オーストラリア発のコーヒー店TOBY'S ESTATEが、新たにスペシャルティグレードの缶コーヒーを発売しました。開発にあたっては、カフェで提供するアイスコーヒーのような味わいを目指し、日本の開発チームを含む複数の事業部門と協働する一大プロジェクトとなりました。時には同店のコーヒー部門責任者が来日し、日本の消費者を対象に試作を重ねるなど、試行錯誤の末、カフェのアイスコーヒーに限りなく近い製品を完成させました。

In Europe



#倫理観と責任

フランスでは、経営陣が毎週月曜日に工場を視察する「現場ウォーク」を実施しています。これは、現場に足を運ぶことで高い倫理観と責任感を保ち、信頼されるリーダーであり続けることを目的としています。また、定期的に視察することで、工場の安全性、品質、メンテナンスなどの重要な運用テーマに対する現場の意識を高めるとともに、経営と現場とのギャップを埋める効果もあります。最終的な目標は、現場のオペレーターを積極的に巻き込み、組織全体の責任感と透明性を強化することです。

In Japan



#コーヒーの価値探求 #挑戦と前進

「コーヒーの味や香りを余すことなく味わいたい!」という研究員の想いから生まれたのが、食べるスタイルのコーヒー「YOINED(ヨインド)」。カカオ原料を一切使っていないのでチョコレートではありません。特許製法により、コーヒーを抽出することなくそのまま凍結してまるごと粉砕、豆本来の甘味、酸味、苦みをダイレクトに味わえ、飲むよりも強く、長くコーヒーの「余韻」を楽しむことができます。発売2年目となる2024年には、「おつまみコーヒー」としてお酒とのマリアージュもご提案するなど、晩酌シーンにも進出しています。

存在意義（パーパス）に基づくバリューの実践

挑戦と前進 × カーボンニュートラル

カーボンニュートラルな社会に向けて

2025年4月、世界で初めて 水素焙煎コーヒーの量産を開始

～富士工場稼働～

UCCではカーボンニュートラルへの取り組みの一環として、
おいしいコーヒーをお客さまに届ける上で欠かせない「焙煎」工程に着眼しています。

なぜ水素焙煎に取り組んでいるのか

コーヒー豆の焙煎工程には、一般的に化石燃料が熱源として使用されますが、これによるCO2排出がカーボンニュートラルへの課題となっています。この熱源を再生可能エネルギー由来の電力に切り替えれば、最もシンプルにCO2排出量を削減できますが、さまざまな要因から、工業レベルの焙煎をすべて電化するのは難しい現状があります。

このような背景から、UCCは燃焼時にCO2を排出しない水素火炎を熱源とした水素焙煎に着目しました。

水素焙煎は化石燃料による焙煎に比べ、より広い温度範囲での焙煎が可能であり、消費者にとって重要なコーヒーの風味をさらに引き出せることが分かりました。水素が持つ特性を活かすことで、従来は不可能だった条件で豆を焙煎することができ、水素焙煎ならではの味覚を創造できるのです。

今後も水素焙煎を推進し、カーボンニュートラルだけでなく、コーヒーの多彩な味覚表現を目指して、その可能性を広げていきます。



水素焙煎コーヒー商品
計7種類をラインアップ



富士工場の外観
ここで世界初となる水素焙煎
コーヒーの量産を開始



CO2 排出量
削減への
チャレンジ

焙煎機 1 台あたりの CO2 排出量

570 トン-CO2 / 年

従来（天然ガス）の焙煎機

0 トン-CO2 / 年

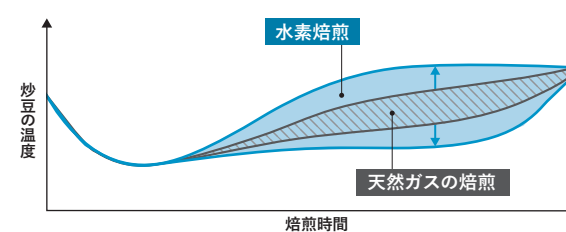
水素焙煎機

焙煎に必要な熱源を従来の化石燃料から水素を燃料として代替することで

CO2 排出ゼロを実現

水素焙煎機
が生み出す
味覚

焙煎プロファイル



水素焙煎は高温・低温の温度調整幅が既存熱源より広く、
緻密な焙煎プロファイルコントロール技術を組み合わせる
ことで、既存熱源よりも

多彩な味覚形成が可能

水素焙煎による味覚の探求

水素焙煎の開発において大きな課題の一つが、コーヒーの味の品質担保でした。従来の化石燃料と水素では単位体積あたりのエネルギー量が大きく異なるため、同一量の焙煎をする場合、従来の品質を保てないことが課題でした。

しかし、気体の中でも水素は燃焼できる温度帯の幅が広く、高い焙煎技術を持つUCCでは細やかな温度のコントロールが可能のため、この技術力を活かして高品質のコーヒーを安定的に製造する方法を見出しました。

さらに、製品設計を担う部署では、焙煎度やコーヒーの生産地によって異なる特性を分析し、お客さまのご要望に応える多彩な味覚のコーヒーを実現しています。

水素焙煎コーヒーは、2025年1月にアメリカで開催されたセミナーにてデモンストラーションを実施し、同年2月には羽田空港のイベントで提供、同年3月には東海道新幹線のグリーン車でテスト販売しました。

そして同年4月より、世界で初めて水素焙煎コーヒーの量産を開始しました。

水素焙煎コーヒーのキービジュアル



チャレンジの軌跡

My Challenge

安定稼働を
実現

たゆまぬ努力の結晶である水素焙煎コーヒーを、
たくさんの人にぜひ味わってもらいたいです！

水素焙煎機の開発において、安全性の確保が最大の課題でした。地球上で最も小さな分子である水素は漏れやすく、取り扱いが難しいので、水素の特性を深く理解し、適切な安全対策を施しました。また、設備メーカーさまをはじめパートナーの皆さまと連携し、試行錯誤しながら取り組んだ結果、無事に安定稼働を実現することができました。

UCC 上島珈琲株式会社 富士工場 製造1課
課長 竹村 洋平

Profile | 富士工場での水素焙煎機設置工事から試運転調整および焙煎条件設定を推進

水素焙煎によりお客さまに新しいコーヒー体験を
提供できるよう、研究を続けていきます！

水素焙煎では従来よりも細やかな温度コントロールが可能となりましたが、焙煎温度や時間によるコーヒーの味への影響度合いは、未だ解明されていない部分も多くあります。目指す味覚を表現するために、焙煎、味覚確認、機器分析を何度も繰り返し、コーヒー豆が持つ特徴を最大限に引き出せる焙煎プロファイルを追求めました。

UCC 上島珈琲株式会社 R&D本部 製品設計部 嗜好品設計チーム
係長 加藤 雄太

Profile | 水素焙煎コーヒーの焙煎プロファイル(コーヒー豆の焼き方)を設計。官能評価や機器分析による味覚や香りなどの品質評価も担当

My Challenge

焙煎設計

コーヒーの香りを分析する機器：
水素焙煎コーヒーの香り成分の
特性を分析するために使用しました

存在意義(パーパス)に基づくバリューの実践

未来のプロダクトやサービスを
実証するためのテストコース
「Toyota Woven City」。
UCCはInventor(発明家)として
参画します。

TOYOTA
WOVEN CITY
INVENTOR

コーヒーの価値探求

カーボンニュートラルな社会に向けて

「Toyota Woven City」に Inventorとして参画、未来型カフェで コーヒーの潜在価値を実証

In Shizuoka,
Japan

トヨタ自動車静岡裾野市で開発を進める「Toyota Woven City」は、人を中心に据えた未来志向の実証都市。UCCグループはこの街で「人と対話とコーヒーを科学する」をテーマにした未来型カフェをオープンします。このカフェでは、コーヒーの飲用が個人の心身に与える影響や人と人との会話の質、量への影響を、脈拍や音声、映像データなどを用いて科学的に検証。味や香りだけでなく、空間や照明、音楽などの環境要素と段階的に組み合わせ

ながら、より良いコーヒー体験の設計を目指します。

さらに、ここで提供するコーヒーとして、UCCが推進する「水素焙煎コーヒー」の導入も検討しています。「未完成の街」Toyota Woven Cityを舞台に、UCCは環境に配慮しながら新たな味覚表現に挑戦します。そして、コーヒーの新たな価値とファンダメンタルとしてのコーヒーの重要性をしっかりと実証していきます。

未来をつくる街でコーヒーの可能性を探る。
人と対話を科学する未来型カフェをオープン

このToyota Woven Cityでの実証型カフェは、私たちにとっても未知のチャレンジです。これまで感覚的に語られてきた「コーヒーがもたらす心の変化」や「会話の広がり」といった価値を、バイタルデータや会話分析などを通じて可視化し、より豊かな体験設計や製品開発につなげたいと考えています。カフェは店舗であると同時に、研究の場でもあります。現地では富士工場で製造した水素焙煎コーヒーも一部提供し、新しい味覚提案や環境配慮型の運営の実証も検討しています。Toyota Woven Cityという「未来をつくる街」を舞台に、コーヒーが社会課題の解決や人々のウェルビーイングにどう寄与できるのか、その可能性を再定義していくプロジェクトです。



UCCジャパン株式会社 執行役員
渉外・事業開発担当

太田 朝之

地球社会への貢献 × ネイチャーポジティブ

ネイチャーポジティブへの展望

国際農業開発基金[※]と連携した タンザニア支援 プロジェクト

※ International Fund for Agricultural Development (IFAD)

持続可能なコーヒー生産プロジェクトにより 安定したサプライチェーンを構築する

ネイチャーポジティブアプローチを実践しているUCCグループはこの度、国際農業開発基金(IFAD)が農林水産省の拠出金で実施する「民間セクター・小規模生産者連携強化(ELPS)イニシアティブ」のパートナー企業となりました。

本イニシアティブの目的は、民間企業と小規模生産者をつなぎ、世界中のサプライチェーンをより安定的で持続可能なものにすることです。この第一号案件として、タンザニアのコーヒーセクターが選出され、UCCが丸紅と共にパートナー企業として参加する「持続可能なコーヒー生産プロジェクト」が立ち上げられました。

タンザニアのコーヒー生産者が抱える課題を探り 解決策を導く

タンザニアは、日本でも有名なコーヒー銘柄であるキリマンジャロを代表とする、世界有数の優れたコーヒー豆の生産国です。また、UCCが選定するネイチャーポジティブに関して優先的に取り組む戦略的生産国の一つでもあります。

しかし、ここ10年で、単位面積あたりの収穫量(生産効率)が低下傾向にあり、大きな課題となっています。UCCグループは、生産効率が伸び悩む要因を明らかにするため、IFADおよび丸紅と共に、タンザニア生産地における3つの地域、合計9つの小規模生産者組合の現地調査を実施しました。

2024年6～7月の約2週間の現地調査を通して、小規模生産者が抱える課題が多岐にわたることが分かりました。例えば、南部に属する生産地域の中でも、多湿によりコーヒーの病気が蔓延しやすい地区がある一方で、水源が乏しく渇水に悩む地区もあります。同じ国内でも、地域地区ごとにさまざまな環境特性があり、それぞれ必要としている支援が異なるということが明らかになりました。

現地指導で生産者を支援し、 生産効率の向上を目指す

タンザニアのコーヒー生産者の9割は小規模農家であり、気候変動への対応や、生産技術の近代化などを課題として抱えています。そこでIFAD、丸紅、UCCグループが協働し、堆肥の生産や土壌の保水性改善などの技術指導によって、生産者を支援します。具体的な目標として、3年間で生産高を2倍に引き上げることを目指しています。

2024
6月
小規模生産者組合の
現地調査開始

2024
9月
ローンチイベント開催

2024
11月
本格稼働に向けた
現地視察、情報収集

11 | UCC Group Sustainability Report 2025

IFAD

プロジェクトの全体管理、
インフラ構築および技術指
導に必要な資材の提供



農林水産省

農林水産省
ELPSイニシアティブ全体
の企画およびIFADへの
資金拠出

プロジェクトでの 役割

UCCグループ

育苗、環境負荷の少ない
農法、堆肥生産および収
穫後の処理に関する技術
指導の提供



丸紅

丸紅
堆肥生産に活用できる地
域資源の調査や、現地で
の進捗確認および報告な
どの進行管理



タンザニア
タンザニア連合共和国
駐日特命全権大使
パラカ・ハラン・
ルヴァンダ閣下



IFAD
IFAD マーケット&バリューチェーン
リードスペシャリスト
リック・ヴァン・
デル・カンブ



UCC
サステナビリティ経営推進本部
農事調査室 室長
中平 尚己

タンザニアコーヒーの持続可能な未来のために

タンザニアは、持続可能なコーヒーの取り組みを推進するため、UCCとの協力的なパートナーシップを結ぶことを誇りに思っています。このイニシアチブは、地域の農家を力づけ、コーヒーの品質を向上させ、環境を守ることを目的としています。UCCの倫理的な調達と包摂的な開発への取り組みを私たちは高く評価しています。UCCとの協力を通じて、日本では「キリマンジャロコーヒー」として広く知られるタンザニアのコーヒーが世界の舞台でさらに発展し、我が国の人々の暮らしの向上につながる未来を共に築いていきたいと願っています。

開発途上国の小規模生産者への投資 —持続可能で強靱な社会を目指して—

IFADは、開発途上国の農村地域に暮らす小規模生産者への投資を通じて、農村経済の活性化と食料システムの強靱化に特化した唯一の国際機関です。1977年の設立以来、IFADは、官・民セクターからの投資を促進し、小規模生産者のエンパワーメントと食料安全保障の強化に貢献してきました。タンザニアでの取り組みは、コーヒーの収量と品質の向上に加え、生産者のウェルビーイング(健康や幸福)も考慮し、農家、企業、そして政府間でWin-Winの関係を築いています。この「官・民・生産者パートナーシップ」を日本のパートナーの皆さまと実現でき、大変光栄です。

農家とつくる持続可能な「おいしいコーヒーの未来」

UCCは、プロジェクトを通じて、現地小規模農家の皆さまの生計向上を助け、かつ我々のコーヒーサプライチェーンを強化するWin-Winな関係の構築を目指しています。ナーサリー設置による安価で持続的なコーヒーとシェードツリーの供給、地元で排出される有機資材を最大限利用したコンポスト技術の開発と流通網の構築がそれに当たります。今後も生産効率を上げながら環境負荷の少ない農業を提案して、互いの明るい未来につなげていきたいと思っています。

タンザニア支援プロジェクトタイムライン

2024
6月
小規模生産者組合の
現地調査開始

2024
9月
ローンチイベント開催

2024
11月
本格稼働に向けた
現地視察、情報収集

2025
4月以降順次
技術指導①
苗床の寄贈と苗床運営

技術指導②
アグロエコロジカル農法

技術指導③
有機堆肥の生産技術

技術指導④
ポストハーベスト

独自のフレームワークのもと、サステナビリティを推進

コーヒー産業における主要なリスクに対応するためにUCCグループのサステナビリティにおける最重要課題を検討。
重要課題の解決を通じ、サステナビリティビジョンの達成へ

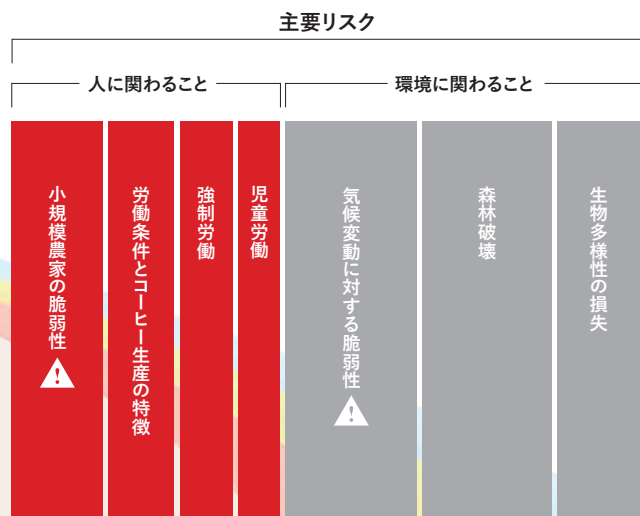
議論を重ね導いたサステナビリティに対する重要課題

コーヒー産業における主要なリスクは、「気候変動への脆弱性」と「小規模農家の脆弱性」です。特に、「コーヒーの2050年問題」とも呼ばれる、コーヒーの気候変動に対する脆弱性の問題は深刻です。気候の変化や病害虫の蔓延により、アラビカ種の栽培に適した地域が、2050年までに半減すると指摘されています。

世界のコーヒー生産の80%は、2,500万を超える小規模農家によって営まれており、70以上の国と地域でおよそ1億2,500万人がコーヒーで生計を立てています。しかしながら、これら農家のうち、生産性を維持したまま、病害虫などからコーヒーの木を守り適切に管理できるのはわずか5%にすぎません。小規模農家は気候変動や価格変動、資金調達の困難さ、技術へのアクセス制限など、多くの構造的問題に直面しており、コーヒーの収穫量に深刻な影響を及ぼしています。[※]

これらの問題はUCCグループだけでなく、コーヒー業界全体の課題として真剣に取り組まなければならない喫緊の課題です。

コーヒーのリスク、要因、影響



リスクの規模に合わせて、図の大きさを変えています

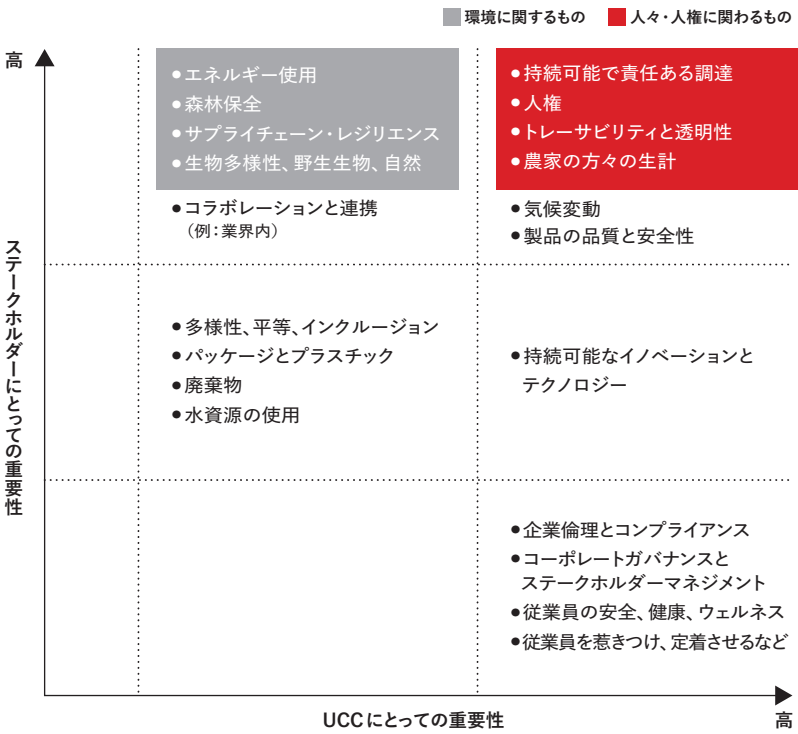
※出典：
<https://link.springer.com/article/10.1007/s10584-014-1306-x>
<https://coffeeandclimate.org/brewing-up-climate-resilience-in-the-coffee-sector/>
<https://www.fairtrade.net/jp-jp/products/fairtrade-products/coffee.html>
<https://www.fairtrade.org.uk/farmers-and-workers/coffee/>

マテリアリティ分析

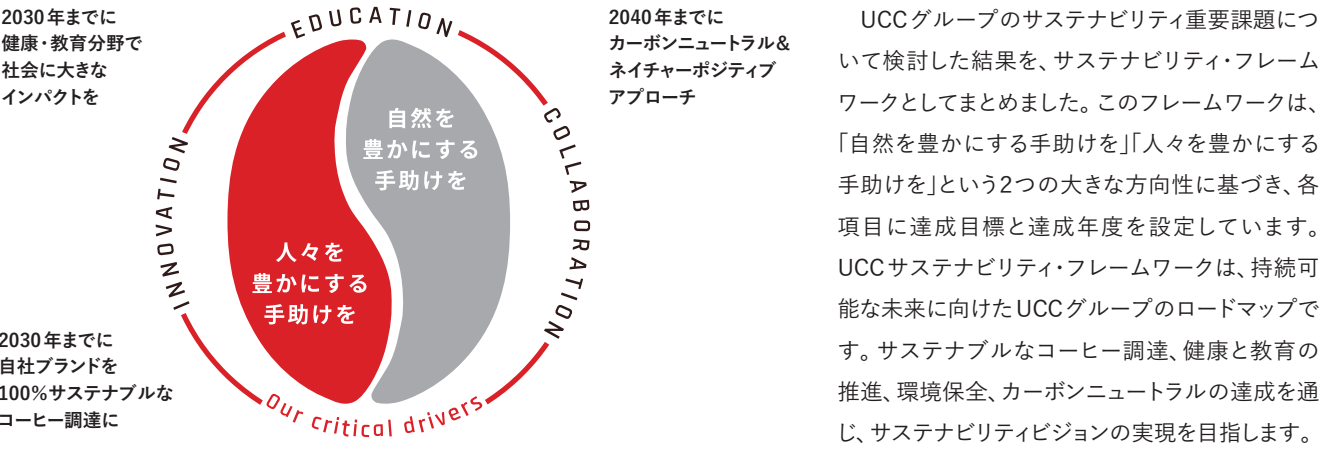
UCCグループは、コーヒー産業における主要なリスク「気候変動への脆弱性」と「小規模農家の脆弱性」に対応するため、そしてUCCグループのサステナビリティにおける最重要課題を検討するために、まず社内外のステークホルダーにインタビューを実施し、外部トレンドとリスクを分析しました。

その後、各課題の重要度を社内外の視点から考察し、最重要課題のマトリックス(マテリアリティ・マトリックス)として整理しました。さらに、執行役員によるワークショップと議論を通じて、課題の優先度を右図のとおり決定しました。

最重要課題のマトリックスに基づいて、UCCグループ内で優先度を高めて対応すべき課題について検討を重ねました。その結果、まず気候変動対策、森林と生物多様性の保全、そして農家の生計向上を目指す取り組みを、優先的に推進することとしました。



サステナビリティに向けたロードマップの設定



持続可能な未来へ向けて

「より良い世界のために、コーヒーの力を解き放つ。」——これがUCCグループの掲げるパーパスです。パーパスを支える5つの価値観(バリュー)のうち、「地球社会への貢献」と「協働と共創」は、サステナビリティ・フレームワークの2つの方向性である「自然を豊かにする手助けを」と「人々を豊かにする手助けを」と深く結びつい

ています。このようにUCCグループは、パーパスからバリュー、そしてサステナビリティ・フレームワークまで一貫した考えのもと、コーヒーに関わるすべての活動を持続可能な未来へとつなげています。以降のページでは、UCCグループの最新のサステナビリティに関する取り組みを、環境、社会、ガバナンスの観点から紹介します。

Environment

持続可能な地球を目指すために／気候変動対策／サーキュラーエコノミーへの貢献

2040年までに カーボンニュートラルの実現を目指して

技術革新と運用改善による温室効果ガス排出削減

2030年までにScope1と2の 温室効果ガス排出量を46%削減

温室効果ガスの排出には、UCCグループの各事業会社からの直接排出(Scope1)、工場やオフィスで使用される電力による間接排出(Scope2)、事業会社以外からの間接排出(Scope3)があります。UCCグループでは、2040年までのカーボンニュートラル実現に向けて、2030年までにScope1と2の温室効果ガス排出量を46%削減する目標を設定しています。

2024年度のScope別排出量は、Scope1と2が全体の3.4%、Scope3が96.6%であり、Scope1と2の排出量は、グローバル全体でのエネルギー効率向上の継続的な取り組みなどにより、2019年度比で21.8%削減しました。また、Scope3の中では、カテゴリー1(購入した製品)が76.0%と最も多く、今後の課題は削減目標の設定や具体的なアクションプランの策定と実行です。

これからも多様なステークホルダーとの連携を一層強化することで、成果を出せるように取り組んでいきます。

□ P.35 参照

自らを革新し、Scope 1 排出削減へ 挑み続ける

UCCグループでは、Scope 1の温室効果ガス排出量削減に向けて、革新的な技術の導入と運用プロセスの最適化を継続的に進めています。

オランダでは、焙煎工程におけるエネルギー源として、天然ガスに代わるゼロ・カーボン水素を利用する研究開発を進めています。オランダで水素インフラが整備されるまでの間は、タンカーでの水素輸送や天然ガスとの段階的な混合利用を通じて、柔軟な移行を計画しています。

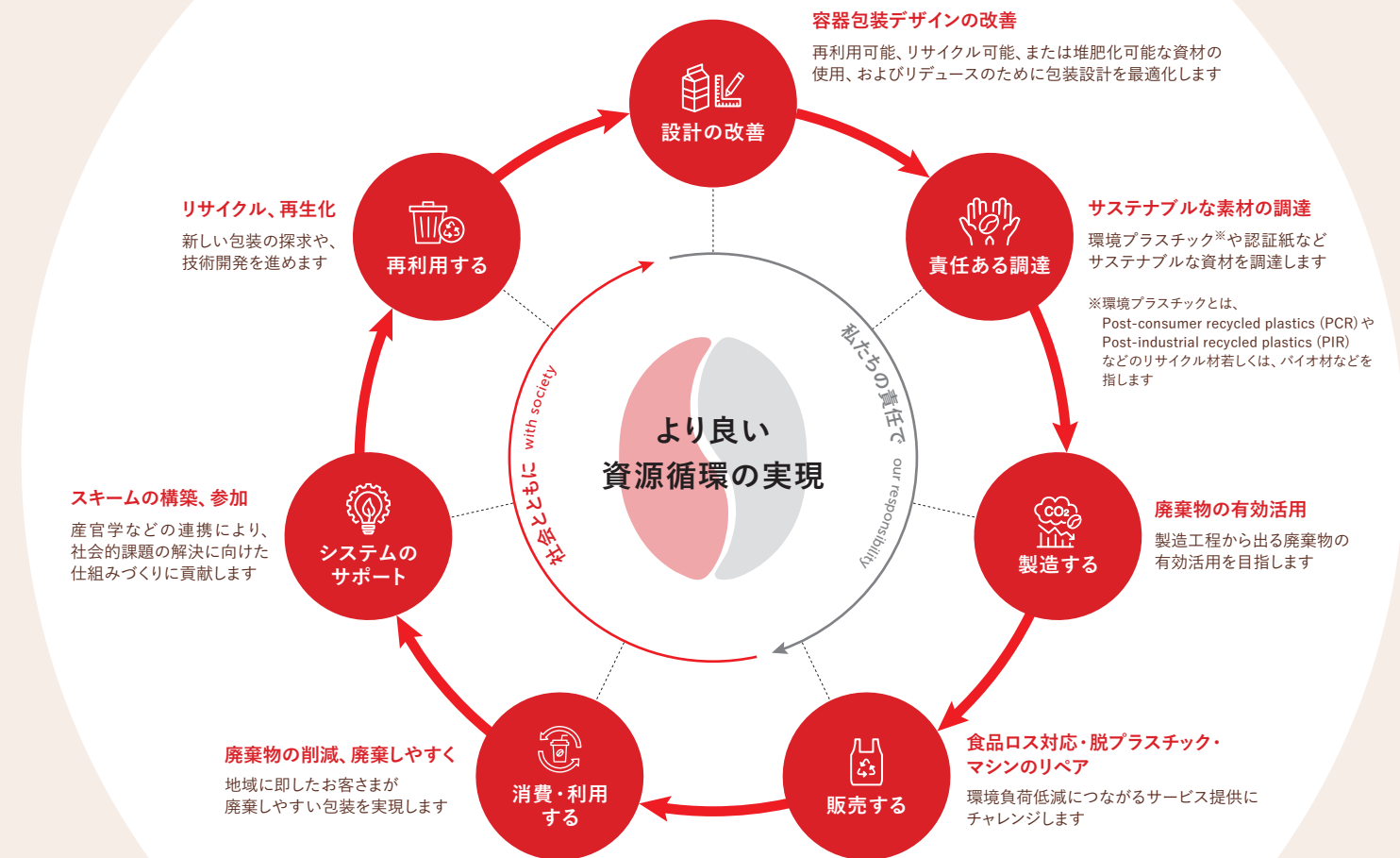
スイスでは、圧縮空気ネットワークを改善しました。空気漏れを検知する測定機器

を導入したことで、2024年にはCO2排出量を20.32トン削減。さらに、電動バルブの設置によって夜間の空気損失を防ぎ、年間700kWhのエネルギーと90kgのCO2を削減しました。

タイでは、焙煎工程を最適化し、予熱時に使用するガスの削減に成功。焙煎の順番を工夫し、焙煎時に出るコーヒー豆を覆う薄皮(チャフ)を効率的に処理することで、清掃時間を短縮しました。

さらに、ユニカフェでは、製品パッケージのフィルム印刷に水性フレキソ印刷を一部導入し、従来の印刷方式に比べ製品1袋あたりのCO2排出量を20.6%削減しました。今後も導入商品を拡充していきます。

UCCグループは、こうした取り組みを通じてScope 1排出量のさらなる削減を目指し、サステナブルな事業運営を推進していきます。



サーキュラーエコノミーを目指して

UCCグループが考える「サーキュラーエコノミー」

従来廃棄されていた資源を有効活用し、可能な限り再利用する「サーキュラーエコノミー(循環型経済)」。UCCグループは、この考え方に基づき、7つの視点から事業活動を推進しています(上図参照)。

例えば、抽出後のコーヒー粉や製造工程で出るプラスチックなどの廃棄物の有効活用、容器包装の省資源に向けた軽量化やコンパクト化など、製品の設計段階から環境負荷の低減につながる工夫をしています。

Case study 事例紹介

#地球社会への貢献 #挑戦と前進

展示商談会「UCC Smile Festa」を 資源循環型イベントへ

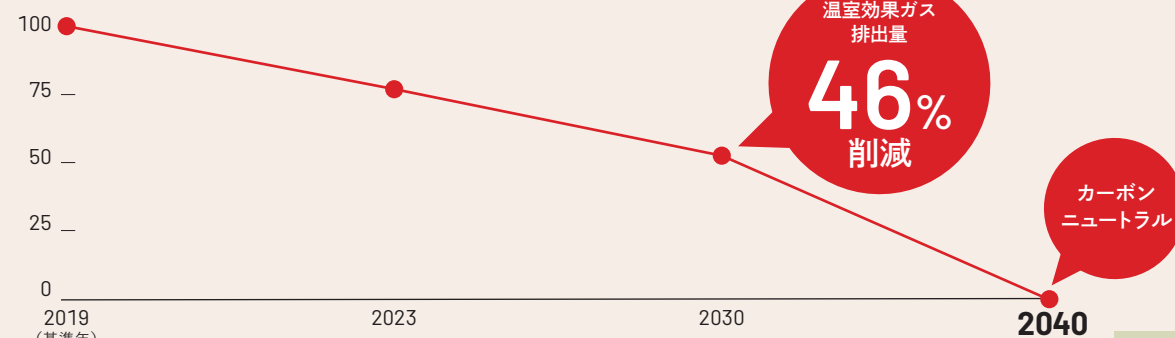
業務用サービス事業を展開するUCC コーヒープロフェッショナルは、主に飲食業界のお客さまを対象とした展示商談会「UCC Smile Festa」を毎年開催しています。2022年からは「ゼロウェイスト」と「CO2排出量の削減」をテーマとした資源循環型イベントへと進化。2024年のイベン

トでは、食品廃棄物量と使い捨てプラスチック排出量を、前年実績からそれぞれ10%削減する目標を掲げ、各ブースで余った食材や商品サンプルを出展社間で共有し、お持ち帰りいただく「mottECO」、開封済みの商品サンプルを持ち寄って試食を推奨する「tabetECO」のコーナーの

設置、出展メーカーに対する試食用資材の脱プラスチック支援を新たに取り入れました。その結果、来場者数1人あたりの食品廃棄物量は前年比で6%削減、使い捨てプラスチックの排出量は14%削減、造作以外の廃棄物量合計は8%削減することができました。



対象20社 Scope1・2における温室効果ガス排出量削減予定



サーキュラーエコノミーを目指して

異業種連携で広がるサーキュラーエコノミー

自社グループ内にとどまらず、他社とも数多く連携してサーキュラーエコノミーを推進している点が、UCCグループの特徴です。

例えば、国内唯一のビーチサンダル専門メーカーTSUKUMOとのコラボレーションでは、「上島珈琲店」から排出された抽出後のコーヒー粉を活用したビーチサンダルの開発に協力しました。抽出後のコーヒー粉はゴムとなじみにくく、強度などに課題がありましたが、食べるスタイルのコーヒー「YOINED」にも使われている凍結粉碎技術を応用することで、比較的高い配合率でも十分な強度を有する素材が完成しました。また、UCCグループのカプセル式コーヒーシステム「ドリップポッ

ド」と三菱鉛筆との例では、自由研究企画「コーヒー × 文房具でアップサイクル！夏休み親子体験イベント」を開催。参加者は水性サインペン「POSCA」でイラストを描いたトートバッグを、抽出後のコーヒー粉で煮だしたコーヒー染め液に浸けて、自分だけのオリジナルトートバッグを作成しました。子どもも大人も楽しめるワークショップを通じて、日常生活に取り入れやすいアップサイクルのアイデアや抽出後のコーヒー粉の利用方法を提案し、SDGsについて親子で考える機会を提供しています。

ヨーロッパの多くの国で人気のコーヒーカプセルは、コーヒーの小売売上高の約40%を占めると推定されていますが、デ

POSCAを使ってデザインし、抽出後のコーヒー粉を煮出してコーヒー染めをした自分だけのオリジナルトートバッグ

ザイン、サイズ、材質の異なる製品が多く、分別やリサイクルは困難です。そこで、UCC EUROPEでは、スペイン、ポルトガル、イギリス、オランダで同業他社と協力し、カプセルの回収とリサイクルシステムを構築しました。例えばスペインでは、カプセルの回収だけでなく、リサイクル機器の研究開発などにも協力し、コーヒーカプセルリサイクルの普及に向けた活動を牽引しています。



#地球社会への貢献 #挑戦と前進

捨てられてしまう抽出後のコーヒー粉がトレイになって活躍

外食事業を展開するユーシーシーフードサービスシステムズが運営している「上島珈琲店」では、「上島珈琲店ブレンド」の抽出後のコーヒー粉を30%配合したアップサイクルトレイの導入を開始しました。これまでも一部の店舗で抽出後のコーヒー粉を分別回収し、飼料としてリサイクルしていましたが、「新たな価値を生み出せないか」と検討も重ねてきました。また、お客さまが店舗で手に取れるものが良いと考え、抽出後のコーヒー粉を再利用したトレイの製造を決めました。

トレイの開発にあたっては、見た目からもコーヒー粉の存在を感じられるよう、樹脂との配合率や成型条件などの調整を繰り返しました。20回以上の試作を重ね、2年以上の歳月をかけてようやくトレイが完

成し、店舗への導入が実現しました。トレイのデザインにもこだわりました。上島珈琲店の店舗内装や家具を手掛ける協力会社と、店舗設計デザイナーが協力し、店内で使用している柳宗理のカップや店内家具にフィットするスタイリッシュで重厚感のあるデザインに仕上げました。染料による着色はせず、コーヒー豆本来の風合いが感じられます。

アップサイクルトレイの導入により、本来捨てられるはずだった約0.8トンの抽出後のコーヒー粉が生まれ変わりました。さらに、このトレイは溶かして成型し直すことができるため、将来的には循環利用できる素材としての活用も可能です。



抽出後のコーヒー粉がトレイに



#地球社会への貢献 #挑戦と前進 #協働と共創

焙煎時の廃棄物を飼料の原料として利用



コーヒーの焙煎工程では「チャフ」と呼ばれる薄皮が大量に発生します。これはコーヒー豆を覆っている皮で、焙煎中に剥がれ落ちます。UCC COFFEE NEW ZEALAND傘下の焙煎所「Roastery at Twenty Three」では、食品廃棄物のリサイクルを手掛けるEcostock社と連携してチャフを活用しています。

チャフは軽くてふわふわしているため、扱いやすく、輸送にも適していません。そこ

でまず、Roastery at Twenty Threeで圧縮して扱いやすい状態にします。その後、EcoStock社がすべての圧縮チャフを収集し、他の食品廃棄物とともに酪農用の家畜飼料の原料に使用しています。

チャフを含む飼料は食物繊維が豊富で栄養価・カロリーが高い上にコストも抑えられるというメリットがあります。この活動は、廃棄物の埋め立て量削減と持続可能な農業に貢献しています。

Case study 事例紹介

#地球社会への貢献

自社からのごみだけでなく、オーシャンバウンド・プラスチックごみにも着目



※ LCAエキスパートセンターのMiLCAを使用して算出

ユニカフェグループでは、2024年度より、工場での製品保管や輸送時に使用するパレットを、順次「OBPパレット」へ切り替えています。このOBPパレットは、海岸から約50km以内の内陸部に廃棄され、海洋ごみになるリスクのあるプラスチック（オーシャンバウンド・プラスチック）を再利用したものです。この切り替えにより、新たな石油由来のプラスチックを使用せずに済み、CO2排出量の削減や海洋汚染の改善・防止に貢献することができます。2030年までに工場で新たに購入するすべてのパレットをOBPパレットへ切り替える予定です。

パレット100枚あたりの製造時のCO2排出量

約**64%**削減

252.9 kg-CO2e



バージンプラスチック

90.9 kg-CO2e



オーシャンバウンド・プラスチック

Environment

ネイチャーポジティブアプローチ

ネイチャーポジティブに向けた取り組み

UCCグループがネイチャーポジティブに取り組む理由

ネイチャーポジティブへ―― 3つのフェーズを設定

UCCグループでは3つのフェーズを設定し、ネイチャーポジティブに取り組んでいきます。

- ① 森林伐採をしない「森林破壊ゼロ宣言」を策定・公表し、ルールをつくって運用面を固める

- ② 将来にわたってコーヒーの生産性を高めるため、ナーサリー建設、土壌管理、シェードツリーや周辺の有用生物の保護などを検討

- ③ カーボンニュートラルを見据えた植林などの活用
2024年8月には、「森林破壊ゼロ宣言」および特に優先的に生産性の向上と自

然生態系回復に関する取り組みを行う「戦略的生産国」を選定したことを公式ホームページで発表しました。

森林破壊ゼロ宣言

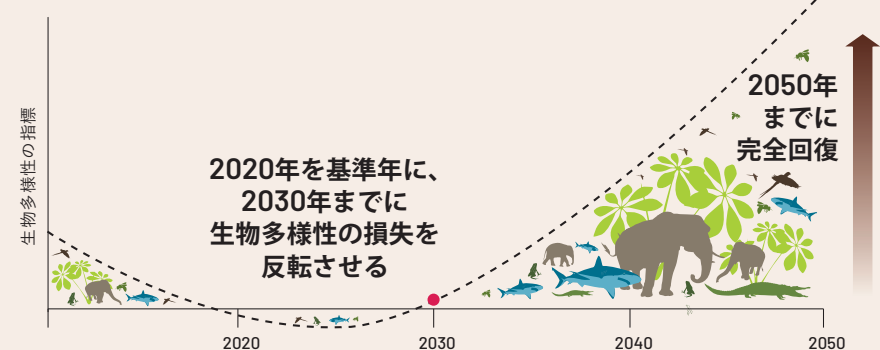
UCCグループは、遅くとも2030年までに、森林の破壊や転換を伴わないことをトレースし、確認されたコーヒー豆のみを使用します

(中間目標:2025年に50%以上の森林破壊防止が確認されているコーヒーを購入します)

コーヒーの需要は世界中で増加し続けていますが、その需要に応える供給量を生産するために森林が破壊されているという現実もあります。2023年に発効した欧州森林破壊防止規則など、昨今の世界の潮流を受け、UCCでも外部機関と協議を重ね、森林破壊ゼロ宣言を制定しました。

ネイチャーポジティブの概念図

Source: naturepositive.org



UCCグループのアクション

UCCグループが優先的に取り組む戦略的生産国

UCCグループは2024年8月、ネイチャーポジティブを目指すために優先的に取り組みを行う戦略的生産国として、ブラジル・ベトナム・タンザニア・ウガンダの4カ国を選定しました。選定にあたっては、国際NGOのコンサベーション・インターナショナル(CI)によるコーヒー生産国における自然に関わるリスク分析結果や、UCCが以前から注目し、農事支援活動が効果的に寄与できるエリアなど、複数の視点から総合的に判断しました。

UCCグループとTNFD

UCCグループでは、CIと協働し、より環境にポジティブな影響を与えることができるような事業活動に向けて議論を重ねてきました。優先的に取り組みを行う戦略的生産国に関しても、CIの協力を得て、選定しました。

UCCグループではTNFDの枠組みに基づいて、これらの取り組みに関する情報を開示しています。

□ P.36 参照
URL：
https://www.ucc.co.jp/company/sustainability/nature/nature_positive_approach/

ネイチャーポジティブを目指すために、主に考慮したポイント

- ① 森林減少等が問題視され、多くの炭素が貯留されていることから保護の価値が高まっているエリア
- ② 気候変動の影響を受けやすくコーヒー生産が難しくなることが懸念されるエリア
- ③ UCCの農事支援・アドバイスの効果的に寄与するポテンシャルが高いエリア など

戦略的生産国4カ国の選定理由

ブラジル

UCCグループにとっての最重要生産国の一つであり、将来的な量のポテンシャルも見込むことができる生産国。ミナスジェライス州などで農園の管理・再生を行うことにより、2050年に向けてもコーヒーにとって栽培適地の状態を維持することができる。

ウガンダ

今後量的なポテンシャルが見込め、施策の優先順位が高い。農事技術支援による生産量の向上や、サステナブルなコーヒー生産の啓発を通じて、地域の産業発展に寄与できる地域である。

タンザニア

産地支援活動により、生産量の回復が見込める地域。キリマンジャロなどでは、一度放出されると元の状態に戻すことが難しい炭素が地中に多く含まれている地域であるために、土壌の保護活動も必要である。

ベトナム

UCCグループにとっての最重要生産国の一つであり、今後サステナブルなコーヒー調達の拡大を目指す地域。例えば、ラムドン省では生物多様性が非常に重要で、保護も重要となっている。

Case study 事例紹介

#地球社会への貢献 #協働と共創

Cafés Temploがスペイン国内各地で植樹・環境再生プロジェクトを実施



スペインを拠点に事業展開するUCCグループのCafés Temploは、サッカークラブ「Real Betis」が推進するパートナーシップ活動「Forever Green」に参画し、2022年から荒廃した山間部の森林を再生する森林再生プロジェクトに取り組んでいます。この森林再生プロジェクトにはスペインを拠点としているUCCの従業員も参加し、2024年度は500本以上を植樹して83トンのCO2削減につなげました。スペインの従業員が1人1本の自生樹木を植えることで、自然環境の保全と気候変

動の緩和に貢献するだけでなく、地域社会に残る自然環境の創出にも貢献しました。Real Betisが保有するエコ・ガーデンでは、抽出後のコーヒー粉を堆肥の一部として使用し、環境に対する意識を高める植樹活動を30名以上のCafés Temploのお客さまと行いました。スペイン南部の都市セビリアの都市型庭園でもお客さまと植林を行いました。このほか、ヨーロッパ最大級の自然保護区であるドニャーナ国立公園においても植林活動を行っています。



Voice

500本の木がつなぐサステナブルな絆

Cafés Templo Food Services SLU
Digital Marketing Specialist Marketing Department

Blanca Herce

Forever Greenとのコラボレーションの一環として、Cafés Temploでは地球環境を守る取り組みを展開しています。特に注目すべきは、従業員とその家族が参加し、荒廃した地域に500本の木を植え、83トンのCO2の排出を防いだことです。私たちはこれからも、地球環境や野生生物の保護に貢献する取り組みを推進していきます。

Social

産地支援とコーヒーコミュニティの
より良い暮らしのために



サステナブルな コーヒー調達

責任ある調達体制の構築

サステナブルなコーヒー調達の 取り組み

コーヒー産業は生産国から消費国まで、
広範囲にわたるバリューチェーンを有して
います。そのすべての過程に関わるUCC
グループでは、それぞれの過程においてサ
ステナビリティを意識して取り組んでいます。

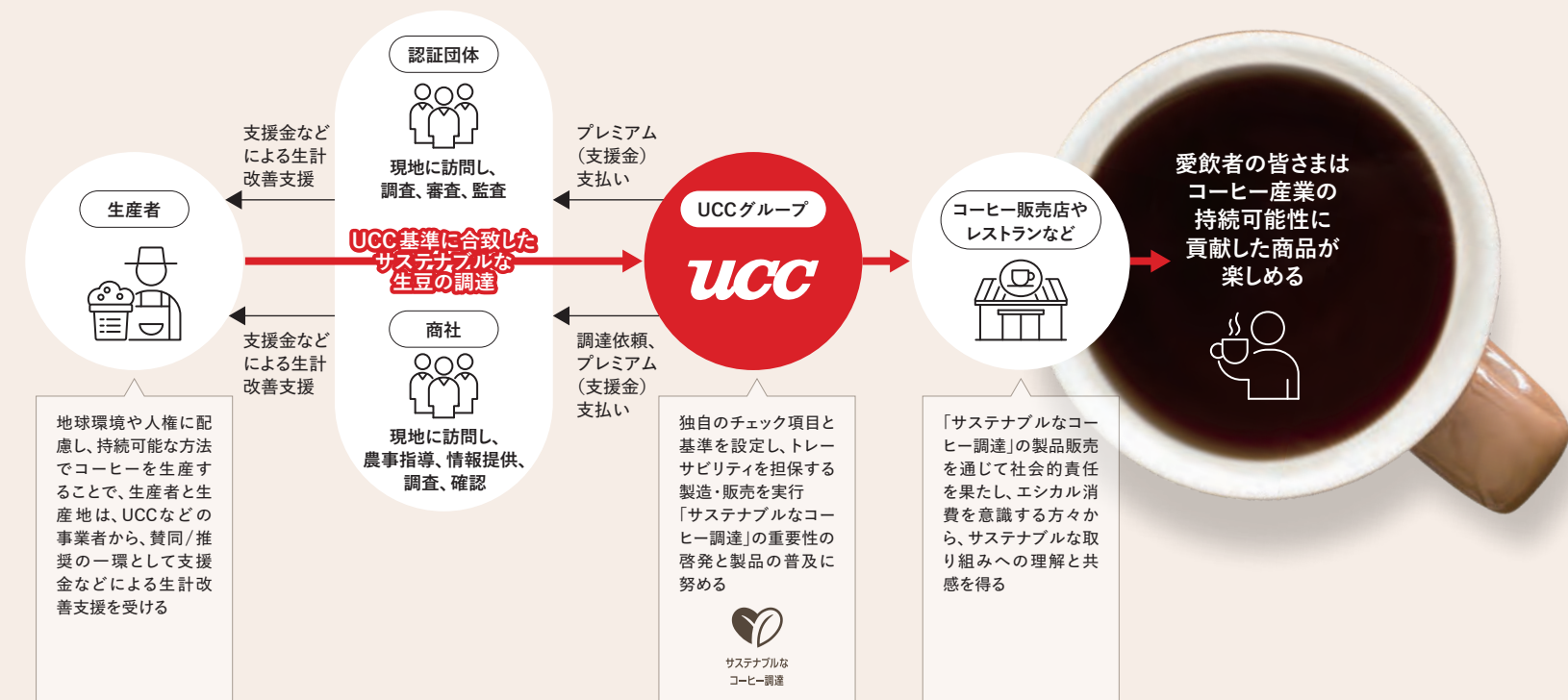
UCCグループでは、サステナブル調達
の枠組みにおいて「UCCグループの責任
ある調達原則」を策定し、それに基づく
「UCCグループ サプライヤー行動規範」を
遵守していただいて人権を尊重した調達
を実践しています。2022年秋には「サステ
ナブルなコーヒー調達」プログラムも始動
しました。

こうしたサステナブルなコーヒー調達の
仕組みはコーヒー産業にとって有意義では
あるものの、やや専門的であるため、営業
企画部門から「この調達を推進すること
で、生産者や消費者、社会がどう良くなる
のかが分かりづらい」という指摘がありま
した。そこでUCCグループは、消費者に

理解・共感していただけるよう、キービジュ
アルなどコミュニケーションツール
(<https://www.ucc.co.jp/company/sustainability/people/coffee/>)を制作して訴求
しています。これらのツールを用いてサス
テナブルに調達されたコーヒーの普及と、
コーヒー産業への貢献を続けていきます。

「サステナブルなコーヒー調達」プログラムの3項目

- ① 調達基準の設定
- ② 調達パートナーの選定
公平性と信頼性を確保するため、グローバルコーヒープラットフォームのリファレンスコードと同等の基準に基づき、UCC独自のチェック項目とパートナー候補の調達コードを照合
- ③ 確認
第三者監査パートナー(取引先や商社など)から年に一度、誓約書とポテンシャルファーマーリストを受け取り、内容を確認



Case study 事例紹介

#地球社会への貢献

上島珈琲店で「サステナブルなコーヒー調達」の 基準を満たしたコーヒー豆を使用

外食事業を展開するユーシーシーフ
ードサービスシステムズは、「上島珈琲店」
で使用する「上島珈琲店ブレンド」を
2024年3月より「サステナブルなコーヒー
調達」基準を満たしたものに切り替えま
した。これまでも上島珈琲店では、プラス
チック資材の削減、フードロスの削減、リ
ユースグッズ推奨など、さまざまな実証



サステナブルな
コーヒー調達

実験を実施してきました。今回は、定番商
品であるネルドリップコーヒーやミルク珈
琲などに使用するコーヒー豆を、サステナ
ブルな基準を満たしたものに切り替える
ことで、一杯のコーヒーが、地球環境や生
産者の生活をより良くする未来につなが
ることを具現化する取り組みとなっています。



Voice

コーヒーのある日常を サステナブルに

ユーシーシーフードサービスシステムズ
株式会社 営業部 店長

轟木 美和

上島珈琲店ではこれまでも「マイタン
ブラーの推奨」など環境に配慮した取
り組みを進めてきました。今回、サステ
ナブルな調達基準を満たすコーヒー
豆に切り替えたことで、お客さまにもサ
ステナブルな活動に気軽に参加して
いただけるようになりました。店舗事
業という特にお客さまに近い立場とし
て、こうした取り組みを正しく伝えるこ
とも大切に、スタッフの育成にも力を
入れています。生産者やコーヒーの未
来に思いを馳せながら、おいしい一杯
をお楽しみいただくと嬉しいです。



Voice

環境と地域に貢献する 台湾発のスペシャルティ コーヒーをぜひ

UCC COFFEE TAIWAN CO., LTD
Senior Marketing Director

張 瑞紋

私たちが提供したいのは、高品質で
あると同時に、環境への配慮と地域
社会への貢献を両立するコーヒーで
す。阿里山農園と協力することで、環
境汚染の防止やCO2排出削減に貢
献するとともに、地元の若者たちに新
たな雇用の場を提供し、活気ある地
域社会に貢献したいと考えています。
このような取り組みを通じて、台湾発
のスペシャルティコーヒーの魅力が
世界に広がっていくことを目指して
います。濃厚でなめらかなコクのある
コーヒーを一口飲むごとに、豊かな自
然と生産者の情熱を感じてください。

#コーヒーの価値探求 #地球社会への貢献
#挑戦と前進 #協働と共創

台湾にて、地元産コーヒーの 生産・販売を支援し、地域に貢献



UCC Taiwanは、台湾の阿里山農園と協
力し、地元の農業振興や雇用創出に取り組
むとともに、地産地消の推進によってGHG
の排出削減にも貢献するなど、社会と環境
に配慮した活動を行っています。

標高1200メートルの阿里山は、日照が
少なく霧が立ち込める気候、豊かな土壌と
山の湧き水に恵まれたコーヒー豆栽培に適
した環境です。年間約30トンしか生産され
ない希少な阿里山のコーヒー豆は、栽培か
ら収穫まですべて手作業で行われており、

丁寧な管理で品質が安定しています。自然
栽培、有機肥料の使用、天然水による処理
など、環境への負荷を最小限に抑えている
ことも特徴です。UCCは5年前から現地の
コーヒー農園「優遊吧斯」と協力し、阿里山
コーヒーの魅力を広めています。

また、現地の農家の多くは先住民族の
ツォウ族(鄒族)の若者たちであり、高品質
なエステートグレードのコーヒー豆の栽培を
通じて、雇用の機会を生み出しています。

人権の尊重

人権ロードマップに基づき、誠実な活動を実施

人権ロードマップ		~2024年度	2025~2029年度	2030年度
方針による コミットメント	人権方針	人権方針の策定・公開	グループ内外への浸透(グループ内研修の実施)	
	人権リスクの 評価	人権リスク評価の実施	人権リスク評価の再実施	
	負の影響の 防止・軽減	サプライチェーン	2030年までに自社ブランドを100%サステナブルなコーヒー調達とする	
			「UCCグループの責任ある調達原則」「UCCグループサプライヤー行動規範」に基づく調達	
		既存の取り組みを継続(サプライヤー自己評価)※対象範囲のさらなる拡充検討		
		既存取り組みの顕著な人権課題への対応状況を再確認		必要に応じて反映
	UCC グループ	農地支援の検討・実施		
グループ内従業員の顕著な人権課題の防止・軽減策の継続実施 (長時間労働軽減、労働安全衛生、差別・ハラスメント、男女格差などに関し、既存人事方針の運用、従業員アンケートによる実態把握など)				
人権デュー デリジェンス	取り組みの 実効性評価	上記負の影響の防止・軽減策に対する モニタリング・レビューの体制構築	モニタリング・レビューの実施	
	説明・ 情報開示	サステナビリティレポートの発行		
			EU企業サステナビリティ報告指令(CSRD) 対応	
是正	苦情処理 メカニズム	JaCER参加/通報受付開始	サプライチェーンすべてのステークホルダーからの通報を「対話救済プラットフォーム」を通じて受付	
			サプライチェーン関係者への通報窓口の周知	

人権ロードマップの作成

UCCグループは、2023年に実施した人権リスク評価結果を踏まえリスクの優先順位を明確にして人権ロードマップを作成しました。これに基づき、グループ全体で人権に与える負の影響を防止・軽減する活動を展開します。

まず、人権方針に基づくコミットメントとして、サステナビリティレポートを通じて活動内容を周知するとともに、グループ内では研修を実施して、理解促進を図ります。サプライチェーンにおける人権リスクへの対応としては、「サステナブルなコーヒー調達」を拡大し、「UCCグループサプライヤー行動規範」と「UCCグループの責任ある調達原則」に基づくサプライヤーセルフアセスメントを定期的に実施し、人権への配慮が適切かどうかを確認

します。さらに必要に応じて生産国とのコミュニケーション強化を図ります。

また、労働時間の管理、労働安全衛生の研修、事故事例の分析と共有、再発防止体制の構築、差別・ハラスメント防止に向けた研修などを継続して行います。男女格差などの課題に対しては、従業員アンケートを通じて実態を把握して解決に取り組めます。これらの施策の有効性を評価するため、モニタリング・レビュー体制を構築し、運用していきます。

グリーバンスメカニズム

UCCグループでは、人権問題が発生した際に適切な救済が提供されるよう、広範囲にわたるステークホルダーからの意見を受け付ける仕組みである、グリーバンスメカニズム(苦情処理メカニズム)を構

築しています。

社内向けには、ホットライン(コンプライアンス違反の通報・相談)を設置し、法令・社内規定違反や労務トラブル・ハラスメントに関する通報や相談を役員や従業員が匿名で行えるようにしています。

社外向けには、2024年より第三者機関を利用した苦情処理メカニズム(一般社団法人ビジネスと人権対話救済機構、略称JaCER)と連携し、通報フォームを設けて英語・日本語で苦情や相談を受け付け、直接の利害関係者でなくとも利用できるようにしています。

これらのグリーバンスメカニズムを通じて、ステークホルダーとの密な関係性を築き、人権問題の課題解決に取り組んでいきます。

エンゲージメント

UCCグループでは、グリーバンスメカニズムに加えて、ステークホルダーとのエンゲージメントも重視し、継続してきました。「より良い世界のために、コーヒーの力を解き放つ。」というパーパスのもと、「UCCグループの責任ある調達原則」を定め、バリューチェーン全体を通して4つの主要な原則に則り調達を行っています。

4つの主要な原則

1. 人権の尊重
2. ビジネスの誠実さと公正なビジネス慣行
3. 品質と安全性の向上
4. より良い環境とコミュニティに向けた努力

サプライヤー向け セルフアセスメントの実施

UCCグループでは、公正で健全な取引を実施するために、人権ロードマップと「UCCグループサプライヤー行動規範」に基づき、主要な取引先に対して、毎年1回セルフアセスメントを実施しています。このセルフアセスメントでは、人権、労働、環境、公正な企業活動、品質・安全性、サプライチェーンなどに関する114項目の質

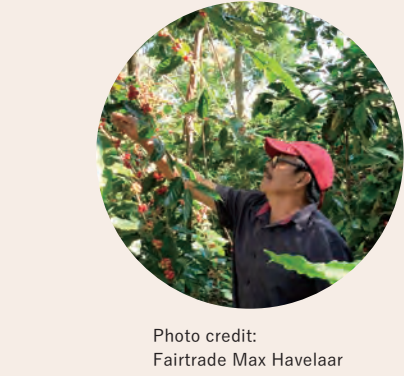


Photo credit:
Fairtrade Max Havelaar



Case study 事例紹介

#地球社会への貢献 #協働と共創 #倫理観と責任

コーヒー農家とのエンゲージメント

UCC COFFEE SWITZERLANDはヨーロッパの大手小売店と協働し、メキシコとペルーからコーヒー農家の生活賃金※の支援につながる調達を行っています。調達の過程でコーヒー農家と対話を重ね、コーヒー農家とその家族が上質な暮らしを営めるよう、標準より高い価格でコーヒー豆を買取っています。この取引価格はLiving Income Reference Prices(生活所得参考価格)によって保証されている最低農産物出荷価格に基づいています(Fairtrade Internationalによると生活賃金を表す)。

こうした取引により、UCCグループは農家の生計向上に貢献する活動をしています。

※ 生活賃金:労働者とその家族が十分な生活水準を維持するために必要な賃金を指します。生活賃金には食料、水、住居、教育、医療、交通、衣服、および不測の事態への備えを含む、その他の必要不可欠なニーズが含まれ、必ずしも最低賃金と同じとは限りません。

問への回答を依頼しています。

例えば日本においては、お取引先に本取り組みの重要性を説明することで、ご理解とご協力を得ることができ、2024年度の回答率は2023年度の80%から96%へと大幅に向上しました。さらに、すべての事業分野(原材料、物流など)において平均得点率も上がりました。セルフアセスメントの結果としてリスクや課題が多いと考えられるサプライヤーの方々には、個別

にヒアリングを行い、実情を把握した上で、協力して状況の改善に向けた取り組みを進めています。また、セルフアセスメントの総合的な結果のフィードバックを通して、すべてのサプライヤーの方々と双方向の情報交換をすることで、さらなる状況改善に向けた協力体制の構築にも取り組んでいます。



Social

ステークホルダーの皆さまとUCCグループ一人ひとりのウェルビーイング

地域と社会への貢献を通じ、 ウェルビーイングを高める

次世代と地域社会のウェルビーイング

ホスピタリティとケータリング業界の 次世代を支援

スキルと機会を得ることで人々はより力を発揮し、ウェルビーイングが向上する—— UCCグループはこう考えています。UCC EUROPEの事業会社であるCafés Temploは、スペイン各地の公立大学6校と連携し、ホスピタリティとケータリング業界を志す学生に専門知識を提供する研修プログラムを提供。厳しい業界で活躍するための知識とスキルを学ぶ機会を通じて、次世代の人材育成を支援しています。

また、スペイン北西部のガリシア地方では、身体的・認知的障がいのある6つの特別支援学校の生徒を対象に、「Special Needs Schools Barista Championship（特別支援学校バリスタ選手権）」を開催。数カ月にわたってCafés Temploのバリスタチームの指導を受けた生徒たちは、大会で自らの才能と可能性を披露しています。

スキルの習得、自信の育成、多様性の尊重を通じて、地域社会が強化され、ウェルビーイングが広がる社会づくりに貢献しています。



スペインにおける特別支援学校
バリスタ選手権実施の様子



「Willen Hospice」を支援する募金を
集めるために、牛の着ぐるみを着て
10マイル歩きました

英国全土の地域コミュニティを支援

UCC COFFEE UKでは、ウェルビーイングは地域や世界にポジティブな影響をもたらすと考えています。コーヒー生産地に清潔な水を届ける支援活動「Project Waterfall」を通じて、従業員たちは2016年からこれまでに17万ポンド以上の資金を集めました。2024年には、「UK Coffee Week」の募金活動の一環としてケーキを販売し、3,600ポンドの寄付を集めました。また、地元のホスピス「Willen Hospice」を支援するため、従業員が牛の着ぐるみを着て10マイルを歩き、1,000ポンドの募金を集めました。

このほか、「Women in Engineering Week」を企画し、25名の女性従業員が「Marco Timed Challenge」に参加。ボイラー関連の実践的な競技に挑戦して技術スキルを競いました。

このように、UCC COFFEE UKは、チャリティ活動、職場での多様性を支援することで、ウェルビーイングの向上を目指しています。



Voice

学びと成長を支える

Cafés Templo Food Services SLU
Barista-Coffee Expert Marketing
Department

Monica Bauzá

Templo Coffee Schoolでは、教育の力を信じ、スペイン各地のホスピタリティ専門学校と連携して研修を提供しています。そのうちの1校では、公教育制度にCafés Temploのエッセンスを取り入れた体験型スペース「Aula Templo Cafés」を開設しました。また、私たちが誇る活動の一つが、障がいのある学生を対象とした毎年恒例のバリスタ大会です。ガリシア地方の公立教育機関と連携し、Cafés Temploが運営とスポンサーを務めています。参加者はペアで力を合わせて技術を披露し、最高のバリスタを目指します。この大会は、競技を超えて自己成長や友情を育む貴重な機会となっています。



女性従業員による「Marco Timed
Challenge」実施の様子

従業員のウェルビーイング

社内のつながりを強め、 成長できる機会を広げる

ユニカフェグループでは、2024年度にボランティア部とコーヒー探索部の2つの部活動を立ち上げました。部活動ごとにテーマは異なりますが、どちらも社内のつながりを強め、社員の視野を広げることを目的としています。

ボランティア部では、外部団体が主催するクリーンアップ活動などに参加し、従業員が地域社会や環境問題解決への貢献を体験できる機会を提供しています。イベント参加後には体験を社内で共有することで、より多くの従業員がボランティア活動に参加する文化を育んでいます。また、普段交流の少ない従業員同士が一緒に活動することで、社内コミュニケーションの活性化にもつながり、業務での協力関係を築く良い機会にもなっています。

コーヒー探索部では、コーヒーのポテンシャルを追求しながら、部員に限らず全従業員が参加できるテイスティングイベントを企画・開催しています。コーヒーへの理解を深め、コーヒーとサステナビリティに関する新たな取り組みアイデアを生み出す機会に加え、従業員同士がコミュニケーションを深める場としても機能しています。

ユニカフェグループでは、今後も新たな

視点や発想を模索できる環境づくりを大切にしながら、従業員が互いに学びあい、成長できる機会を広げていく予定です。

従業員成長を支援する 育成環境の整備

UCCグループでは、従業員一人ひとりの成長を支援する、より良い育成環境の整備に継続的に取り組んでいます。従業員はキャリアプランシートを活用し、自分のキャリアを振り返りながら将来の目標を設定し、その実現に向けて上司と話し合うことができます。このプロセスを通じて、個人の成長と組織目標の整合を図っています。また、上司と部下が定期的に1on1で面談することで、対話の質を高め、自律的な目標達成とキャリアアップを促しています。

公募を通じて全従業員に異動の機会を提供しており、グループ内での異動を希望する者には、個人の希望に応じて柔軟に対応しています。さらに、従業員の主体的なチャレンジを支援する教育環境を整え、「フィリピン実践英語研修」「コーヒーアドバイザー養成研修」などの公募型研修も実施しています。

こうした取り組みに加え、従業員の情熱、意欲、満足度を可視化するエンゲージメントサーベイを定期的 to 実施していま

す。サーベイ結果は職場での対話セッションを通じて共有しており、このフィードバックのプロセスにより、従業員の意見を反映した改善が進み、協力的で対応力のある職場環境が育まれています。

快適で健康的な職場づくり

UCCグループでは、従業員の健康維持をサポートするため、健康保険組合の人間ドック利用補助に加えて補助金を支給しており、35歳以上の従業員は実質的に個人負担なしで人間ドックを受診できます。

また、ストレスチェックを定期的 to 実施し、従業員にストレスレベルのモニタリングを促し、メンタルヘルスリスクの低減を図っています。ストレスチェックの結果は部署ごとに分析され、職場環境の改善につなげています。

日本では2021年から就業時間中の全面禁煙を実施し、より健康的な職場環境づくりを推進しています。

これらの取り組みは、従業員の価値を認め、最高のパフォーマンスを発揮できる持続可能な職場づくりの一環です。健康、安全、ウェルネスを最優先にすることで、長期的な組織の成功と従業員の満足度向上につながる基盤を構築しています。



コーヒー探索部活動の様子。従業員同士のコミュニケーション強化につながっています



ボランティア部による
地域クリーンアップ活動の様子



コーヒー探索部によるテイスティング
イベントの様子



サステナビリティ教育

2030年までに教育の力で社会への貢献を拡大する

UCCグループでは、「2030年までにサステナビリティ教育の受講者数30万人」を目指しています。2021年度より、コーヒーの幅広いバリューチェーンとSDGsとの深い関連性を活かし、日本全国の小学生から大学生までを対象とした教育活動に積極的に取り組んでいます。

Case study 事例紹介

#コーヒーの価値探求 #協働と共創

楽しく学びながら、未来のために考え行動できる力を育む

UCCグループは、子どもたちがSDGsの重要性を学べるさまざまな体験の場を提供しています。2024年には米原市主催のイベントに参画し、コーヒークイズを出題しながら、SDGsについて学べる機会を提供するなど、自治体とも協働しました。

また、UCCグループは、同じ志を持つ企業とのコラボレーションがより大きな良い影響を生むと考え、タカラトミーグループと協働で、参加型のオンライン授業を開催。この授業では、抽出後のコーヒー粉とコーヒー生豆の麻袋を配合した再生紙で作られたリアクションカラーカードを使用。子どもたちはこのカードを使ってクイズに答えながら、SDGsを楽しく学びました。

さらに、UCCコーヒー博物館では「SUMMER COFFEE FESTIVAL」を開催し、小学生(4～6年生)とその保護者を対象に親子で学べる「コーヒーとSDGs for キッズセミナー」を実施したほか、麻袋を

アップサイクルしてつくるコーヒー時計のワークショップや、水素を熱源として焙煎したコーヒー豆の提供など、コーヒーとサステナビリティに関する多彩な体験の場を提供しました。



UCCのコーヒー再生紙が、タカラトミーのオンライン授業で使用されるリアクションカラーカードに



上) SUMMER COFFEE FESTIVALでのコーヒーとSDGs for キッズセミナーの様子
下) 米原市主催イベントにおけるUCCブースの様子



セイハ英語学院の幼児向け授業にて行った、UCCミルクコーヒー缶の塗り絵の様子

#協働と共創

セイハ英語学院とのコラボレーション

UCCグループは、子ども向け英語教育を展開するセイハネットワークと協働し、「英語学習」と「コーヒー」を組み合わせたサステナビリティ教育プログラムを実施しました。このコラボレーションは、UCCグループの「コーヒーの力で、世界にポジティブな変化を」というビジョンと、セイハネットワークの「英会話を通じた次世代教育」へという想いが共鳴したことから実現

しました。

本プログラムは、2024年7月20日から8月31日まで、全国500以上の拠点を持つセイハ英語学院の授業の中で実施され、約5,000名の生徒が参加しました。幼児向けにはコーヒーとSDGsを楽しく学べるクイズや動画、塗り絵などを提供。小学生向けは、「コーヒーとは?」「どこで育つの?」といった基礎知識を学びながら、コーヒー産業を取り巻く環境や課題について理解を深め、自分にできるアクションを考える構成となっています。

さらに、西日本初の体験型英語学習施

設「KITAKYUSHU GLOBAL GATEWAY (KGG)」では、7月の土日と夏休み期間の計16日にわたり、「コーヒーソムリエになろう!」と「フードベアリング体験」のイベントを開催しました。約2,000名の来場者がコーヒーを通じてSDGsを英語で学びました。このほかUCCジャパンは、参加者にコーヒー豆の育ち方や豆の種類、コーヒーとお菓子の組み合わせを五感で楽しみながら学べるプログラムや、コーヒー産業が環境や社会に与える影響について考えるプログラムを提供しました。

#協働と共創

札幌月寒高等学校の探究学習プロジェクト「BEING ALIVE」に参画

UCCグループは、一般社団法人SWITCHや石屋製菓(以下、ISHIYA)と連携し、札幌月寒高等学校の探究学習プロジェクト「BEING ALIVE」に参画。2024年9月から2025年2月にかけて全14回のワークショップを実施しました。

このプロジェクトには28名の生徒が参加し、UCCジャパンとISHIYAのサステナビリティ担当者と直接対話を重ねながら、環境保全に向けた実践的なアクションを探

究しました。UCCジャパンは、第1回から第3回の授業を担当し、地球環境や人権問題、資源循環などに関する取り組みを紹介。また、第9回と第10回は両社合同でのトークセッションを行い、生徒たちは企業と課題解決策について意見交換し、持続可能な社会に向けた新たな視点を育みました。最終回では、参加した生徒たちが校内で成果を発表し、学びやアクション内容を全校に共有しました。



企業との対話は生徒たちの貴重な経験になりました

UCCグループさまには、コーヒーを持続可能にする取り組みについて、生徒たちに丁寧に説明していただきました。日本での暮らしが地球沸騰化とどのようにつながっているのかを学び、サステナビリティ担当者との対話を通じて、企業の本気度や創意工夫を実感できたと思います。また、生徒たちが自ら身近な課題を見つけ、解決策を考え、行動に移すプロセスを半年間のグループワークを経て経験したことで、主体性が育まれたことに感銘を受けました。「地球規模の課題を自分ごととして考えるようになった」「課題解決力が身についた」といった声も聞かれ、サステナブルな人材を育てるには、実践する企業の熱意を直に感じる必要だと再認識しました。今後も地球沸騰化対策に取り組み、行動の輪を広げていきたいと思います。



一般社団法人SWITCH
代表理事
佐座 横苗

「コーヒー×健康」分野での研究推進

健康目標

2030年までに
「コーヒー×健康」分野で、
年間3億杯、売上150億円を通じて、
世界中の人々の健康に貢献する

毎日飲むコーヒーで健康をサポート

UCCグループでは、「コーヒー×健康」をテーマに掲げ、お客さまの健康をサポートする商品の開発を積極的に進めています。コーヒーの健康成分に着目した研究や機能性表示食品の開発に加え、近年は生活シーンに合わせてカフェインの摂取をコントロールする考えも広がっており、カフェインレスコーヒーにも力を入れています。

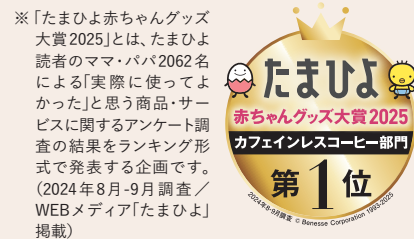


UCCの研究で見出した「コーヒー由来トリゴネリン」の健康効果に関するメディアセミナーを実施（2024年11月）

シーンを気にせず楽しめる カフェインレスコーヒー

「UCCおいしいカフェインレスコーヒー」は「たまひよ赤ちゃんグッズ大賞2025」のカフェインレスコーヒー部門で1位を受賞※。受賞は5年連続となりました。たまひよ読者からは「カフェインレスとは思えない本格的な味わい」「いつも飲んでます!」という嬉しいお声も寄せられています。ワンドリップタイプ、インスタント、PETボトルなど、幅広いラインアップで味わいも選べるため、妊産婦・授乳期の方はもちろん、睡眠への影響が気になる方や、コーヒーの飲みすぎが心配な方などにも気軽に楽しんでいただけます。

また、「カフェインレス=おいしくない」「特別な人向け」といったイメージをお持ちの方にも、実際に味わっていただく機会や飲用シーンの提案を通して、カフェインレスコーヒーを選肢肢に入れていただけるように活動しています。



UCCおいしいカフェインレスコーヒー シリーズ

粉タイプ、ワンドリップタイプ、インスタント、PETボトルと、幅広いラインアップ。ワンドリップは味わいで選べる2種を展開



Case study 事例紹介

#挑戦と前進 #協働と共創

健康成分「コーヒー由来トリゴネリン」に着目した製品を開発

初の機能性表示食品※

2024年秋、UCC上島珈琲は「UCC &Healthy スペシャルブレンド」を発売しました。4年の歳月をかけた独自研究により「コーヒー由来トリゴネリン」という成分が、BMIが高めの方の安静時のエネルギー消費の向上をサポートすることを発見。日本で初めて※その機能性を表示したコーヒーとして、機能性表示食品の届出が受理されました。

コーヒー由来トリゴネリンの機能

人間の体には、脂肪を蓄積する「白色脂肪細胞」と、脂肪を燃やしてエネルギーに変える「褐色脂肪細胞」の2種類の脂肪細胞があります。近年の研究では、「ベージュ脂肪細胞」の存在も明らかになり、これまでの研究から、コーヒー由来トリゴネリンには「白色脂肪細胞」をベージュ化させる機能が確認されています。つまり、コーヒー由来トリゴネリンには「細胞が脂肪を蓄えるのではなく、燃焼してくれるようにアシストする」機能があるといえます。

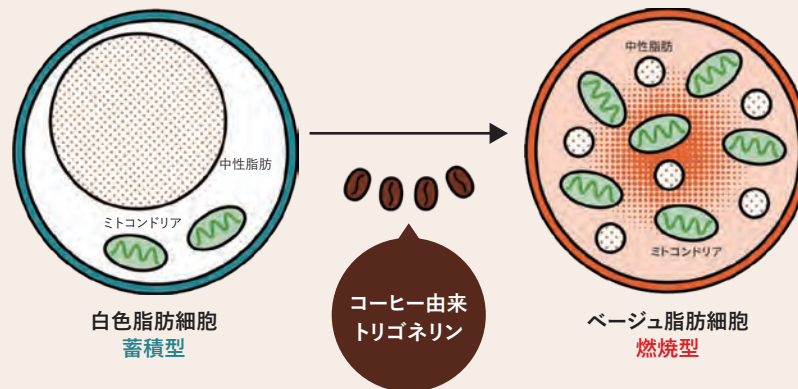
臨床試験では、男女91名を対象に、コーヒー由来トリゴネリンを継続摂取する

グループとコーヒー由来トリゴネリンを含まない試験食を継続摂取するグループに分け、摂取8週後の安静時のエネルギー消費量を比較しました。その結果、BMIが高め(23≦BMI<30)でコーヒー由来トリゴネリンを摂取したグループの方が、より多くの安静時のエネルギーを消費していることが確認されました。

おいしさへのこだわり

「UCC &Healthy スペシャルブレンド」は、レギュラーコーヒー 100%でおいしさにもこだわった自信作です。コーヒー由来トリゴネリンはコーヒーの生豆に多く含まれていますが、焙煎によって減少してしまうため、そのバランスが商品開発のカギとなりました。味の評価とコーヒー由来トリゴネリン量の分析を何度も重ね、コーヒー由来トリゴネリンの含有量を確保しながらも、豊かな甘い香りとバランスのとれた味わいを実現しました。機能性を期待できる1日の摂取目安量を4杯分と設定したため、カフェインを摂取しすぎないよう、カフェインレスにしています。

イメージ図(in vitroでの試験)



※ コーヒー由来トリゴネリンにより、BMIが高めの方の、安静時のエネルギー消費の向上をサポートする機能として(2024年7月現在)

機能性表示食品

UCC &Healthy スペシャルブレンド ワンドリップコーヒー

【届出表示】

本品にはコーヒー由来トリゴネリンが含まれます。コーヒー由来トリゴネリンは、BMIが高めの方の日常のエネルギー代謝の一部である安静時のエネルギー消費の向上をサポートする機能が報告されています。

- 食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。
- 本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。
- 本品は国の許可を受けたものではありません。



Voice

健康飲料としてのコーヒーの価値を具現化できた喜び

UCC上島珈琲株式会社
R&D本部 研究開発部
プロジェクトリーダー

植田 恵美

健康という普遍的な価値は、コーヒー産業の持続可能性にとって重要なテーマです。

2020年9月に、社内プロジェクトチームを立ち上げ、「コーヒー由来トリゴネリン」のユニークな機能に着目した研究をスタートさせました。おいしさの追求を妥協せず、研究成果を商品化するまでには多くの困難がありましたが、試行錯誤を重ねて、ようやくお客さまに商品を届けられたことを心から嬉しく思います。

今はまだ、コーヒーで健康になろうと発想する方はそう多くはないでしょう。しかし、コーヒーが嗜好品から日常的な飲料となり、世界中の人々に愛される存在となった今だからこそ、健康飲料としての新たな価値を創造することは、社会やコーヒー産業の未来にポジティブな変化をもたらす大きな挑戦だと考えています。その挑戦を支えるのは私たちのおいしいコーヒー作りへの情熱と培ってきた技術です。

コーヒーが好きな理由、選ばれる理由がまた一つ増える未来に向かって、前進していきます。

2024年秋新発売
UCC &Healthy
スペシャルブレンド



Governance

UCCグループの透明性向上とリスクマネジメント

ガバナンスとサステナビリティ

真のグローバル企業への飛躍を目指して

グローバルガバナンス

UCCグループは、日本、欧州、アジア地区、オセアニア地区の世界4地域体制から成り、グローバル本社であるUCC Holdingsとそれぞれの地域統括会社の役割は下記のとおりです。

- UCC Holdings：グループ統括、生豆などの調達 ほか
 - UCC ジャパン：日本国内の各子会社・関係会社の株式保有、統括、海外向け輸出 ほか
 - UCC EUROPE：欧州事業（コーヒーの製造・販売）の統括
 - UCC ASIA PACIFIC：アジア事業（コーヒーの製造・販売、喫茶・飲食業）の統括
 - UCC ANZ：オーストラリアおよびニュージーランドのコーヒーの製造、販売、コーヒーマシンの販売・メンテナンス・レンタル、喫茶・飲食業
- 各地域を統括するRegional CEOが各地の状況や重要な動向を整理し、グローバルCEOが検討した後、取締役会の方承を経て、経営方針が決定されるプロセスとなっています。

サステナビリティ推進とガバナンス

UCCグループは、ステークホルダーとの関係を、経営上考慮すべき重要な要素と考えており、お客さま、従業員とのコミュニケーションや、一般社団法人ビジネスと人権対話救済機構（JaCER）への加入など、さまざまなステークホルダーからの多様な意見を取り入れる仕組みを構築しています。これにより、経営における重要なフィードバックを得て、適切な意思決定を行います。

また、コーヒーという商材を扱うUCCグループは、サステナビリティを経営上の最重要課題と位置づけ、「自然を豊かにする手助けを」と「人々を豊かにする手助けを」という2つのコンセプトに基づき、グループ全体のサステナビリティ指針となるサステナビリティ・フレームワークを策定しました。このフレームワークに基づき、GSSC（Global Sustainability Senior Committee）を頂点とするサステナビリティに関するガバナンス体制を確立しました。GSSCのメンバーは、UCC HoldingsのPresident of Business and Trading、各地域の事業

責任者、UCC ジャパンのサステナビリティ経営推進担当執行役員と経営企画・法務担当執行役員で構成され、サステナビリティに関する目標達成に向けた活動の進捗確認や、課題解決策の提示・推進を担っています。

UCCグループは、地域の中核会社が地域の状況を考慮しながら、グローバル共通のサステナビリティ方針に沿った活動を推進しています。毎月開催されるグローバルサステナビリティミーティングでは、GSSCのメンバーと各地域の実務担当者が参加し、各地域での活動状況や目標の進捗を共有した上で、課題があれば、その対策について議論します。また、サステナビリティの目標に対する成果や課題を共有し、優れた取り組みを他の地域に展開するための協議も行います。経営上重要な環境変化や経営判断が必要な事案についても話し合い、適時適切にグローバルCEOや取締役会へ報告し、グループとしての経営意思決定を行っています。

この月次ミーティングで議論された重要な内容は、グローバル全体の主要経営

陣が参加する半期に一度のサステナビリティ経営報告会でも共有され、UCCグループ全体のサステナビリティ活動の方向性が管理・維持されます。

UCCグループは、こうした体制を通じて、決まった方針を着実に事業活動へ反映させています。さらに、サステナビリティに関する感度を高めるため、主要なグループ企業の役員を対象に、年に1回サステナビリティ研修を実施しています。この研修では、最新の課題、先進事例、国際的なNGO/NPOの視点など、多岐にわたって取り上げています。それぞれの分野に精通した外部有識者による講演や活発な意見交換を通じて、理解の深化を図っています。

このような独自の体制により、UCCグループは自グループだけでなく、グローバルにコーヒー産業の持続可能性の維持に貢献しています。

2024年サステナビリティ役員研修

開催日：
2024年10月16日

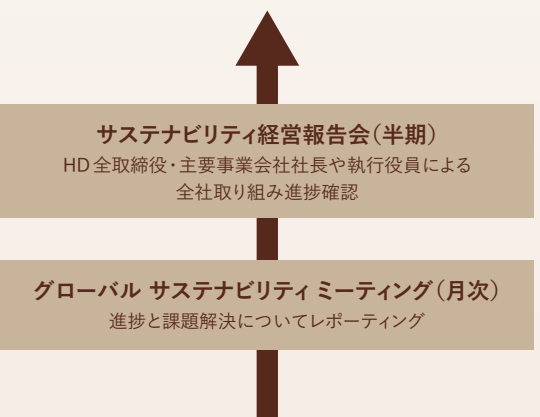
テーマ：
サステナビリティによる価値創造

内容：
サステナビリティ経営の背景と基本、およびCSVの基本アプローチや世界のCSV好事例について

講師：
シェアードバリュー・コンサルティング
グ合同会社 代表 水上武彦氏



UCCグループの事業の主なエリアである日本、欧州、アジア、オセアニアを統括する事業会社役員から構成されるシニアコミティー。サステナビリティに関する目標達成のため、アクション進捗を評価し、課題があれば迅速に解決し実行をリードしています。



日本 JAPAN UCC ジャパン グループのサステナビリティ戦略立案、サステナビリティ目標に対する全体進捗管理に加えて、ジャパンエリア統括として、日本事業会社のサステナビリティアクションをリードし実行しています。	UK EUROPE UCC EUROPE 欧州エリア統括として、欧州各国の状況を踏まえながら、欧州事業会社のサステナビリティアクションをリードし実行しています。
シンガポール AP UCC ASIA PACIFIC PTE. アジアエリア統括として、アジア各国の状況を踏まえながら、アジア事業会社のサステナビリティアクションをリードし実行しています。	オーストラリア／ニュージーランド ANZ UCC COFFEE AUSTRALIA UCC COFFEE NEW ZEALAND オセアニアエリア統括として、オセアニア地域各国の状況を踏まえながら、オセアニア事業会社のサステナビリティアクションをリードし実行しています。

気候変動関連財務影響評価（TCFD※に基づくリスクと機会の評価）

UCCグループは、気候変動問題への対応を重要な経営課題としてとらえており、TCFDのガイドラインに基づくリスクと機会の評価を実施しています。

評価の仮定・シナリオ

評価の時間軸
気候変動に関わるリスク・機会が発現する時間軸について、中期的時間軸として比較的近い未来を対象とした2030年、長期的時間軸としてより遠い未来を対象とした2050年を設定

シナリオの設定
脱炭素化が進むシナリオとして「1.5℃シナリオ」、脱炭素化が遅れるシナリオとして「4℃シナリオ」の2つを設定

シナリオ	概要と主な外部機関の参照シナリオ
1.5℃シナリオ	概要 世界全体で早期に着実な取り組みを進め、脱炭素に向けた規制や政策の強化が進み2050年にカーボンニュートラルを達成することを想定したシナリオであり、移行リスク(カーボンニュートラルへの移行に伴う規制や技術、市場環境等の変化による事業への影響)が顕在化することが想定されます。 主な外部機関の参照シナリオ ●IEA: Net Zero Emissions by 2050 Scenario (NZE) ●NGFS: Net Zero 2050 ●IPCC: SSP1-2.6 ●PRI Inevitable Policy Response: 1.5℃ Required Policy Scenario (RPS)
4℃シナリオ	概要 現在実施されている政策のみが保持される想定シナリオであり、追加的な気候変動対策が十分になされず、異常気象による自然災害の激甚化などの物理リスクが高まります。温室効果ガスの排出削減に向けた政策や規制はあまり進まず、1.5℃シナリオに比べると移行リスクは小さくなると想定されます。 主な外部機関の参照シナリオ ●IEA: Stated Policies Scenario (STEPS) ●NGFS: Current Policies ●IPCC: SSP5-8.5

※ Task Force on Climate-related Financial Disclosures

移行リスク

カテゴリー	内容	重要度	財務への影響	財務への影響の大きさ		
				シナリオ	2030年	2050年
政策・法規制	カーボンプライシングの導入・強化に伴い、炭素排出に対するコスト負担が生じ炭素税が増加する。(Scope1・2排出へのコスト負担の発生)	高	炭素税負担の発生	4℃	小	小
				1.5℃	中	小
	カーボンプライシングの導入・強化により、化学肥料の販売価格が上昇し、農家のコーヒーの生産コストが増加するため、UCCグループのコーヒーの調達コストが増加する。	高	原材料調達コストの増加(コーヒー生産時に使用する化学肥料に対するカーボンプライシングによるコーヒー調達価格の増加)	4℃	小	小
				1.5℃	中	中
	GHG排出規制が強化され、これに対応するための低炭素技術・設備への投資コストが増加する。	高	低炭素技術・設備への投資コストの増加(Scope1・2排出削減費用)	4℃	中	中
				1.5℃	大	大
	森林破壊はGHG排出要因の一つとして気候変動対策で重視されるようになり、森林伐採地で作られたコーヒーの販売の規制が導入され、森林伐採地で生産されたものでないことを示せないコーヒーは販売機会を失う可能性がある。	高	コーヒーの調達コストの増加(森林破壊をしていない証明をすることでかかるコストアップ)	4℃	小	小
				1.5℃	中	中
	プラスチックの使用に対する懸念が高まり、ワンウェイプラスチック(使い捨てプラスチック)の使用に対する課税の導入や代替素材への切り替えが必要となり、包材での対応コストが発生する。	高	プラスチック使用規制対応コストの増加	4℃	中	中
				1.5℃	中	中
市場	脱炭素化の進展に伴い、エネルギー価格(天然ガス価格)が上昇し、製品の生産コストが増加する。	高	天然ガスの調達コストの増加	4℃	小	小
				1.5℃	小	小
	脱炭素化の進展に伴い、エネルギー価格(電力価格)が上昇し、製品の生産コストが増加する。	高	電力の調達コストの増加	4℃	中	小
				1.5℃	中	小
評判	自社の気候変動への取り組みが不十分な場合、ブランド評価が低下し、顧客との取引機会の減少や人材確保の困難が生じる。	高	営業利益の減少	4℃	小	小
				1.5℃	大	大

物理リスク

慢性	気候変動に伴う気温上昇や降雨量の変化によって、コーヒーの収量が減少し、コーヒーの調達コストが増加する。	高	コーヒーの調達コストの上昇	4℃	大	大
				1.5℃	中	大
急性	洪水などの気象災害により製品の生産拠点が被災し、操業が停止することで販売機会損失が生じる。	高	被災での操業停止による販売機会損失	4℃	小	小
				1.5℃	小	小

機会

エネルギー源	コーヒーの焙煎に水素焙煎技術や電気焙煎、代替燃料などの代替エネルギーを活用することにより、炭素排出コストが削減される。	高	天然ガスから水素焙煎への転換による焙煎コストの減少(または増加)、炭素税は削減	4℃	中(リスク)	小(リスク)
				1.5℃	小(機会)	中(機会)
製品およびサービス	気候関連の情報開示や規制の導入が進むにつれて、より多くの顧客企業が気候関連の目標を宣言するようになり、顧客の気候関連目標に貢献する商品の販売機会が拡大する。	高	顧客の気候関連目標に貢献する商品の販売機会拡大	4℃	小(機会)	小(機会)
				1.5℃	小(機会)	小(機会)

注)財務影響の大きさの判断基準は、下記のような想定をしています
対売上高影響額の場合→大:100億円以上、中:10～100億円、小:10億円未満
対営業利益影響額の場合→大:3.3%以上、中:0.3%以上～3.3%未満、小:0.3%未満
売上高設備投資比率の場合→大:3%以上、中:1.5%以上～3%未満、小:1.5%未満

Scope1・2・3の温室効果ガス排出量

(単位:t-CO2)					
	2019年(基準年)	2021年	2022年	2023年	2024年
Scope1					
日本	45,693	40,145	38,456	38,045	38,017
欧州	11,870	10,314	10,767	11,316	11,590
アジア	1,695	1,639	1,963	2,033	2,170
オセアニア	1,976	1,976	1,976	1,976	2,357
グローバル合計	61,234	54,074	53,162	53,370	54,134
Scope2					
日本	44,782	51,728	34,149	30,793	29,702
欧州	2,044	320	345	225	66
アジア	1,109	1,084	1,166	1,266	1,310
オセアニア	781	781	781	781	719
グローバル合計	48,716	53,913	36,441	33,065	31,797
Scope1・2合計	109,950	107,987	89,603	86,435	85,931
Scope3					
1 購入した製品サービス	—	—	—	—	1,858,501
2 資本財	—	—	—	—	7,234
3 Scope1・2に含まれない燃料及びエネルギー活動	—	—	—	—	21,818
4 輸送、配送(上流)	—	—	—	—	175,799
5 事業から出る廃棄物	—	—	—	—	24,304
6 出張	—	—	—	—	22,279
7 雇用者の通勤	—	—	—	—	2,111
8 リース試算(上流)	—	—	—	—	4,113
9 輸送、配送(下流)	—	—	—	—	15,764
10 販売した製品の加工	—	—	—	—	21,791
11 販売した製品の使用	—	—	—	—	196,155
12 販売した製品の廃棄	—	—	—	—	93,993
13 リース試算(下流)	—	—	—	—	該当なし
14 フランチャイズ	—	—	—	—	該当なし
15 投資	—	—	—	—	該当なし
Scope3合計	—	—	—	—	2,443,862

注)「サステナビリティレポート2024」からの変更点:Scope3においてグループ間の重複算定分を除外、修正

大気汚染物質排出量

(単位:t)	
	2024年
SOx排出量	4.3
NOx排出量	36.8

データ対象は日本

廃棄物・副産物排出量

(単位:t)	
	2024年
排出量	39,188
再資源化量	34,143
再資源化率	87.1%

水使用量

(単位:m³)	
	2024年
取水量	2,531,978
排水量	1,175,851

自然関連財務影響評価(TNFDの枠組みに基づく自然関連情報の開示)

UCCグループは、コーヒー生産の持続可能性にとって、生産地の自然環境・社会環境の維持は最重要課題であると認識しています。そのため、生産地支援の一環として、ネイチャーポジティブに取り組んでいます。2024年度は、持続可能な調達のための戦略的対応を検討するべく、自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)の「LEAPアプローチ」に沿って、分析を開始しました。

TNFD LEAPアプローチのL・E(発見・診断)

コーヒー産業について、バリューチェーンおよび自然との関わりにおける産業特性を次のように認識しています。

	バリューチェーン	産業特性
コーヒー産業について	上流：コーヒー豆生産 中流：輸入・加工・販売(UCC事業) 下流：サービス・消費	コーヒー産業のライフサイクルアセスメントの観点より、最大のインパクトは肥料や燃料、灌漑用水などの投入が多い農園にあることを認識。コーヒー豆の栽培は、天然林の農地転換による森林減少や生物多様性の減少を引き起こす可能性がある。

コーヒーの産業特性から、最重要課題である上流のコーヒー豆生産におけるロケーション分析を次のプロセスに沿って実施し、優先的に対応を行う必要のある地域を特定しました。

	実施プロセス	分析内容
上流のロケーション分析/優先拠点の選定	Step1：生産面積の推計	2021年に調達したコーヒーの調達量から生産に必要な総面積を推定
	Step2：生産地域のマッピング	総調達量の上位8カ国(ブラジル、エチオピア、ホンジュラス、ペルー、ベトナム、コロンビア、グアテマラ、タンザニア)を選定
	Step3：分析指標の選定(保全の優先度の決定)	気候、生物多様性、将来の変化に対する脆弱さなどの、保全の優先度における主要な分析指標を決定
	Step4：コーヒーや自然にとって重要な地域の特定	コーヒーと自然の両方にとって重要なクラスタ(行政単位)として、8カ国の中で31カ所を特定

TNFD LEAPアプローチのA(評価)

コーヒー産業のリスク・機会を次のように認識していますが、今後はUCCグループの事業に沿った分析を深め、具体的な事業へのリスク・機会について検討を進めます。

	カテゴリー	項目	コーヒー産業のリスクの概要
リスク分析内容	移行リスク	市場の需要増 土地改変リスク	将来のコーヒー需要を満たすには、2050年までに生産量を3倍に増やす必要がある
			コーヒーは全世界で1,000万haもの農地で栽培されている
			コーヒーの生産地は生物多様性や森林破壊の脅威にある土地で栽培されている
	物理リスク(慢性)	気候変動	2050年までに気候変動によりコーヒーの生産適地が半減する
			気候変動はコーヒーの生産性と品質に影響を与え、最終的に供給自体に関わる

	カテゴリー	項目	コーヒー産地における機会の概要
機会分析内容	持続可能性	自然との共生	農園において環境的に持続可能な方法でコーヒーの生産性と品質を向上させる取り組みを行うことにより、人と自然の双方にとって良い結果をもたらす
	持続可能性	ネイチャーポジティブ	ネイチャーポジティブに重要な活動を保護・再生・修復というカテゴリーに分けて実施することで効果的で持続可能な土地の管理を実現
	事業	安定した調達	生産地への投資による持続可能な調達の実現

今後はTNFDに沿った分析や開示をさらに進めるとともに、引き続き多様なステークホルダーと協働してリスク・機会に対する対応策を検討していきます。



<https://www.ucc.co.jp/>



UCCのサステナビリティ

<https://www.ucc.co.jp/company/sustainability/index.html>



UCCグループ企業情報

<https://www.ucc.co.jp/company/index.html>

